



2022年3月期 決算説明会

東京製綱株式会社

May, 16, 2022

1. 22年3月期決算・23年3月期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

1-1. 2022年3月期 決算数値概要

	21年3月期		22年3月期		前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	増減比(%)
売上高	59,183	—	63,780	—	+4,597	+7.8%
営業利益	700	1.2%	1,621	2.5%	+921	+131.5%
経常利益	209	0.4%	2,021	3.2%	+1,812	+865.3%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	408	0.7%	1,306	2.0%	+898	+220.3%
D/Eレシオ	1.16		0.98		改善	
配当額	無配		20円/株		復配(+20円/株)	

1-2. 2022年3月期 PLのポイント

コロナ禍の需要減からの回復、海外CFCC事業の売上増により増収増益

<p>売上高</p>	<p><u>637億円</u> (前期比+7.8%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コロナ禍の大きな影響を受けた前年同期からは大きく回復。 • 諸資材価格上昇等に応じた価格転嫁により増収。
<p>経常利益</p>	<p><u>20億円</u> (前期比+865.3%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 需要回復に伴う操業改善により、落ち込んでいた前年同期から大きく改善。 • 営業利益との比較では、為替差益約3億円と持分法利益約1億円の計上が大きい。
<p>親会社株主に帰属する 当期純利益</p>	<p><u>13億円</u> (前期比+220.3%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • スチールコード事業等での特損(約15億円)等を計上するも、操業改善により前年比では大幅改善。

1-3. 2022年3月期 BSのポイント

業績回復を背景に財務体質が改善しつつあり、D/Eレシオは1未満に

(単位:百万円)	前年同期 (21年3月期)	当期 (22年3月期)	摘要
有利子負債	27,167	25,221	借入金を返済し有利子負債総額は約19.5億円減少。
自己資本	23,322	25,502	好業績を受け利益剰余金が増加し、着実に積み上げ。
D/Eレシオ	1.16	0.98	1未満となり大きく改善。

1-4. 2022年3月期 CFのポイント

売上増加に伴う運転資本増加の影響があるも、適度な投資と借入金返済を実施

(単位:百万円)	前年同期 (21年3月期)	当期 (22年3月期)	摘要
営業CF	2,834	1,915	棚卸資産の増加等により減少。
投資CF	▲396	▲1,503	前期は中国法人の売却収入有。
フリーCF	2,438	412	適切な設備投資を実施。
財務CF	▲2,679	▲2,289	借入金返済(19.5億円)等。
期末残高	6,086	4,425	円滑な運営に十分な水準を維持。

1-5. 2023年3月期 通期予想

国内防災・道路安全等で堅調な推移が見込まれると共に、
資材等の価格上昇に応じた価格転嫁の通期寄与、追加実施を見込み増収増益

	22年3月期(実績)		23年3月期(予想)		前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	増減比(%)
売上高	63,780	—	67,000	—	+3,220	+5.0%
営業利益	1,621	2.5%	2,500	3.7%	+879	+54.2%
経常利益	2,021	3.2%	2,700	4.0%	+679	+33.5%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	1,306	2.0%	1,900	2.8%	+594	+45.4%

1-6. 2023年3月期末 配当方針

- 23年3月期の配当は、前述の業績予想を前提に、一株当たり30円を予定しております。

	22年3月期実績	23年3月期(予想)
配当(年度当たり)	20円/株	30円/株
配当性向(連結)	24.7%	25.4%

新型コロナウイルス感染症の再拡大リスク等、引き続き不透明な状況が続いており、今後の業績によっては変動する場合がございます。

1. 22年3月期決算・23年3月期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

2-1. セグメント別実績と予想(2022年3月期実績)

(単位:百万円)	21年3月期(実績)		22年3月期(実績)		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線関連事業	25,698	1,260	25,202	1,167	▲496	▲93
スチールコード 関連事業	7,458	▲1,111	8,605	▲827	+1,147	+284
開発製品関連事業	17,613	▲134	18,943	215	+1,330	+349
産業機械関連事業	3,197	82	4,252	460	+1,055	+378
エネルギー不動産 関連事業	5,214	602	6,776	605	+1,562	+3
合計	59,183	700	63,780	1,621	+4,597	+921

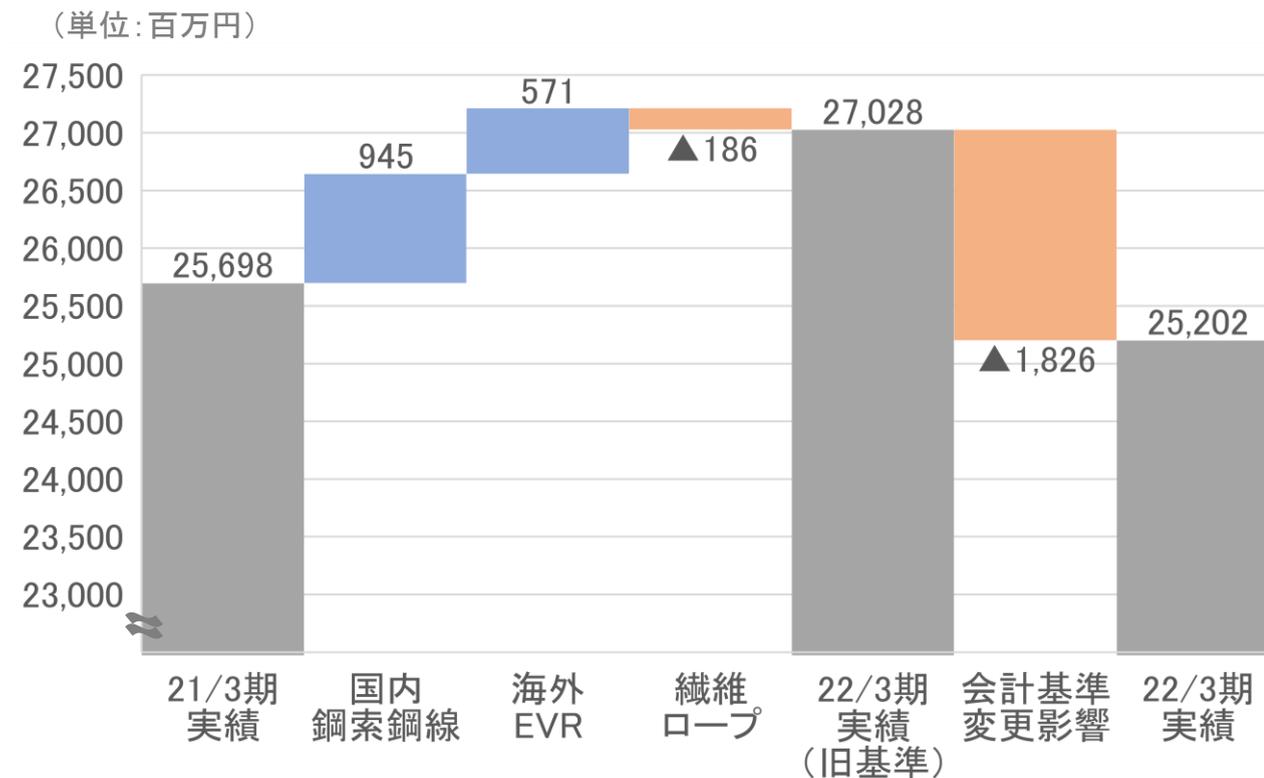
2-1. セグメント別実績と予想(2023年3月期予想)

(単位:百万円)	22年3月期(実績)		23年3月期(予想)		前年同期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鋼索鋼線関連事業	25,202	1,167	25,500	1,000	+298	▲167
スチールコード 関連事業	8,605	▲827	9,500	▲400	+895	+427
開発製品関連事業	18,943	215	20,000	1,000	+1,057	+785
産業機械関連事業	4,252	460	4,500	400	+248	▲60
エネルギー不動産 関連事業	6,776	605	7,500	500	+724	▲105
合計	63,780	1,621	67,000	2,500	+3,220	+879

2-2. 鋼索鋼線関連事業概況(売上高)

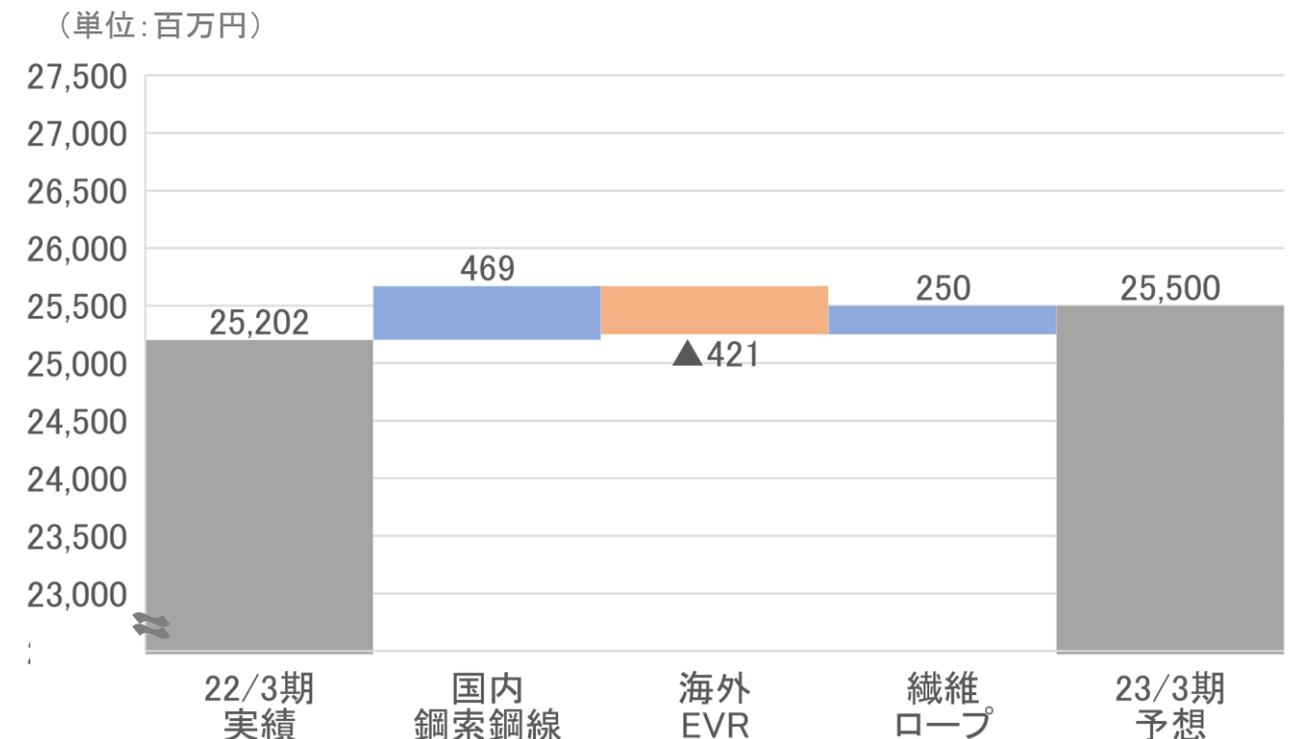
実績

- 国内向けは会計基準の変更により減収も、実態は海上土建等で販売増により増収。
- 海外エレベータロープは好調で、販売増と共に為替の影響もあり増収。



予想

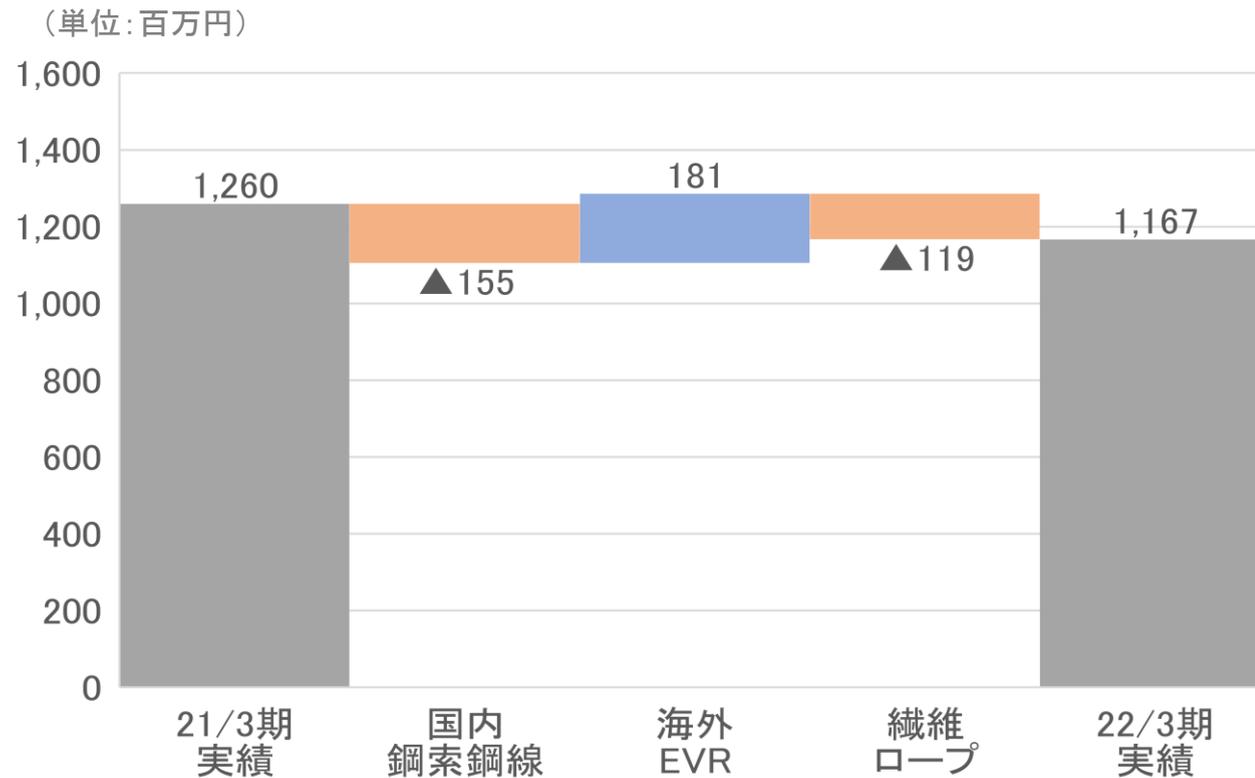
- 国内向けは、諸資材価格上昇等に応じた価格転嫁を見込み増収を見込む。
- 海外エレベータロープは、値上による数量減と景気動向を踏まえ減収を見込む。



2-2. 鋼索鋼線関連事業概況(営業利益)

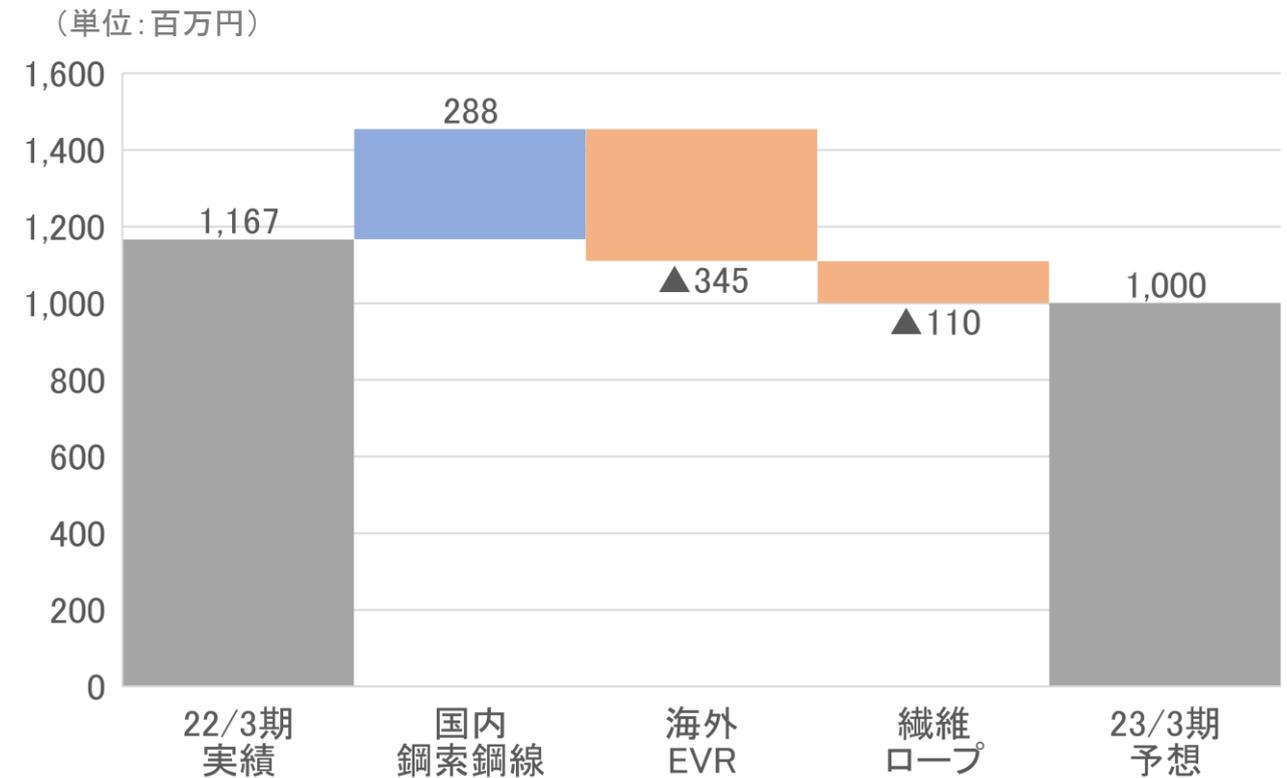
実績

- 諸資材価格上昇等に伴う値上を実施も、価格上昇と転嫁とのタイムラグにより減益。



予想

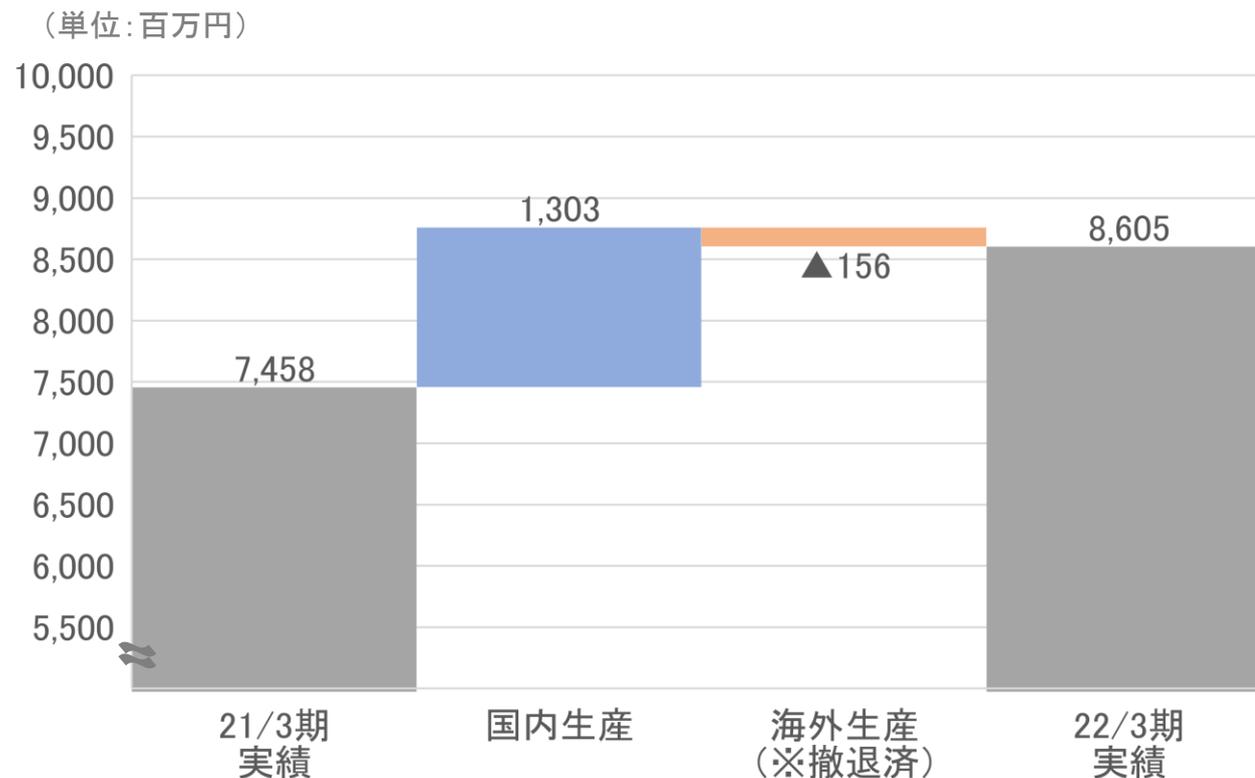
- 国内向けは、値上の通期寄与により増益。
- 海外向けは、値上影響により減益見込む。
- 更なる資材等価格上昇へは遅滞ない転嫁、コスト削減で収益の維持改善に努める。



2-3. スチールコード関連事業概況(売上高)

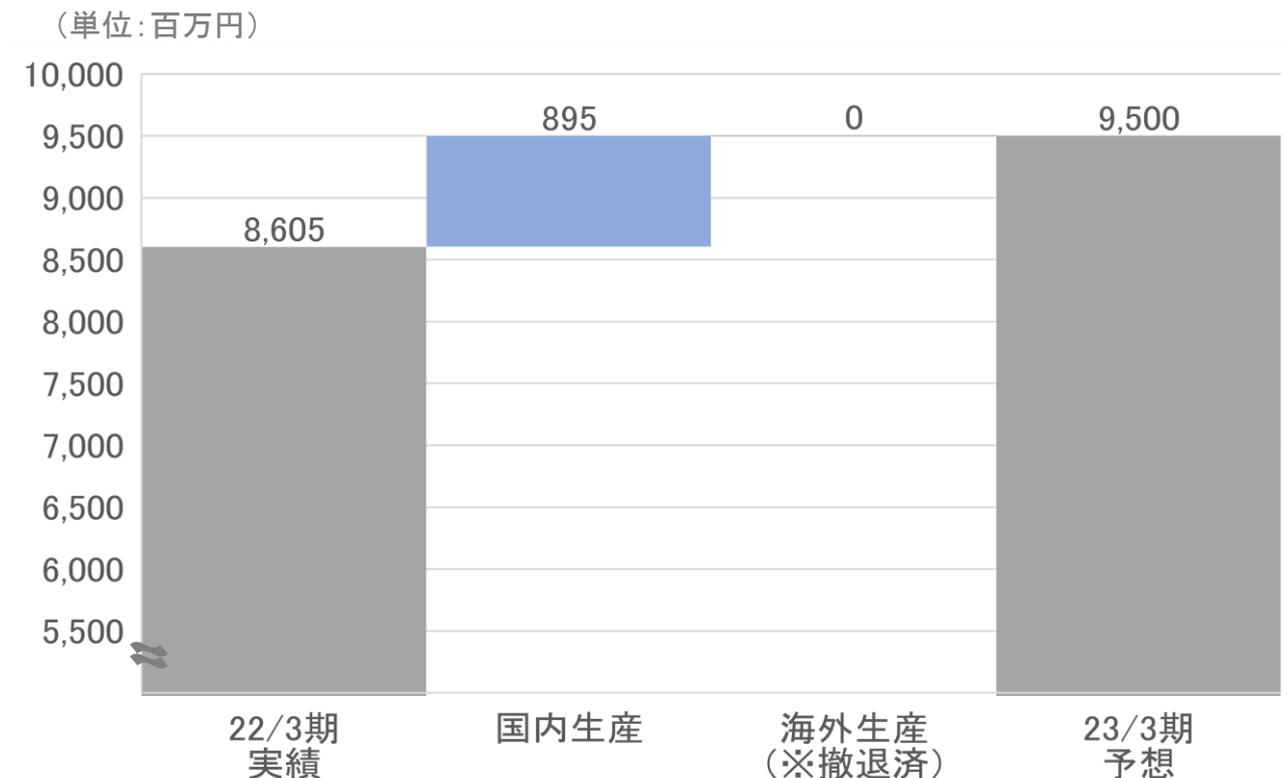
実績

- 諸資材価格上昇等に応じた価格転嫁により増収。



予想

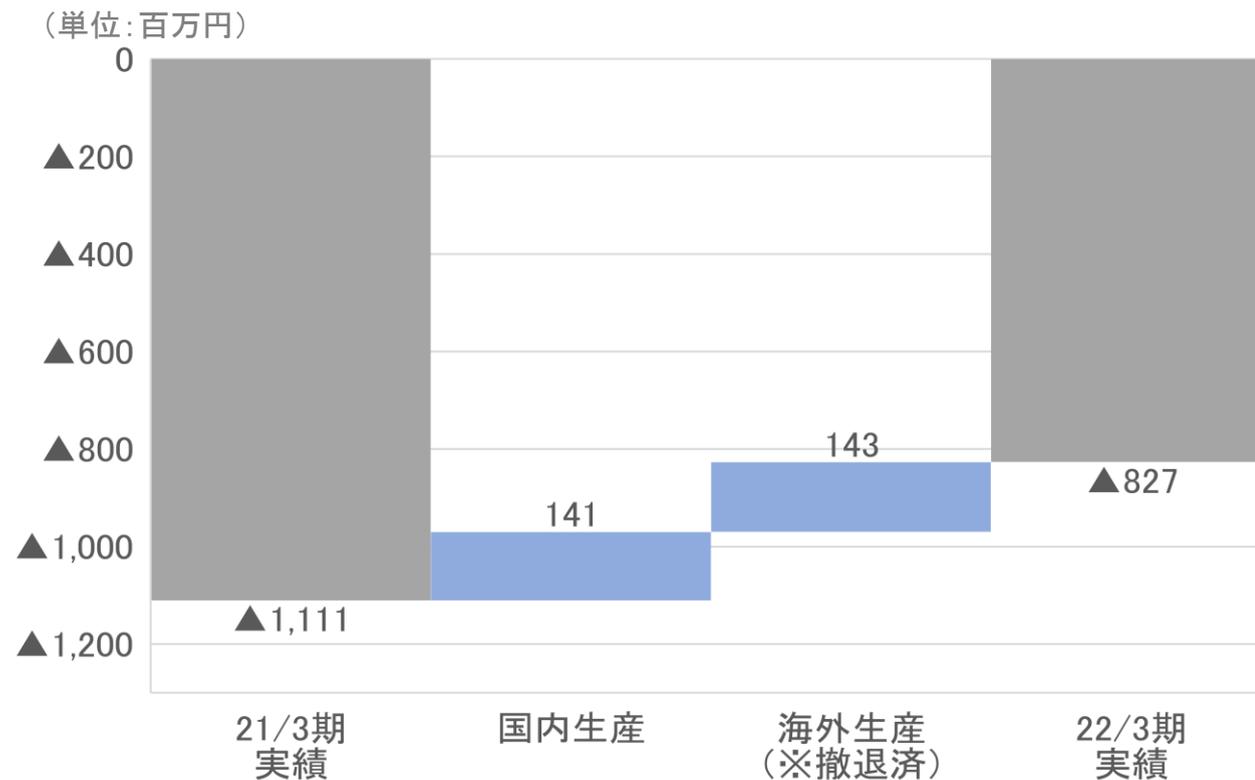
- 円安や海上運賃上昇に伴う海外製タイヤコードとの競争環境の変化を踏まえ、増収を見込む。



2-3. スチールコード関連事業概況(営業利益)

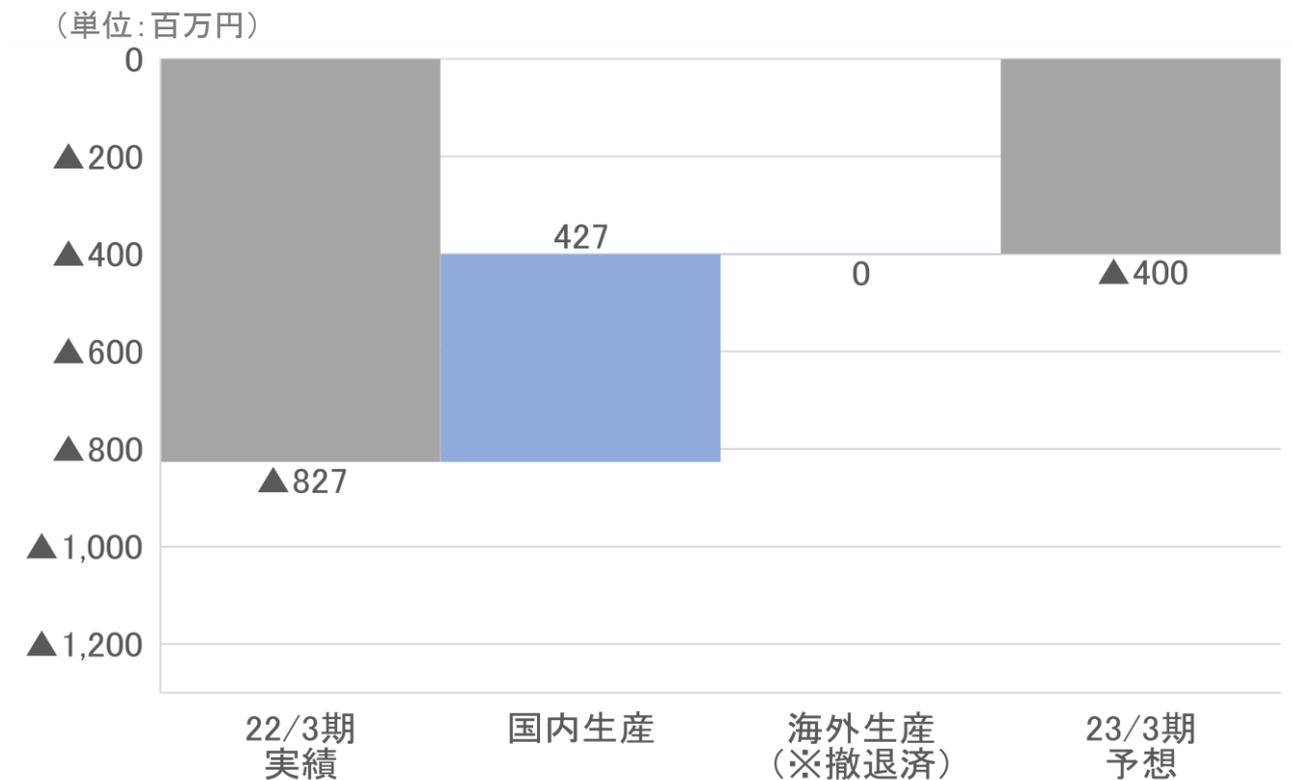
実績

- 国内受注回復と不採算であった中国拠点撤退により赤字縮小。
- 諸資材価格上昇等に伴う値上を実施も、タイムラグにより改善は小幅に留まる。



予想

- 値上実施分の通期寄与、エネルギー価格上昇等に伴う追加値上の効果を見込む。
- 過年度に投入した設備の本格稼働により、製造コスト低減と増産による改善を見込む。

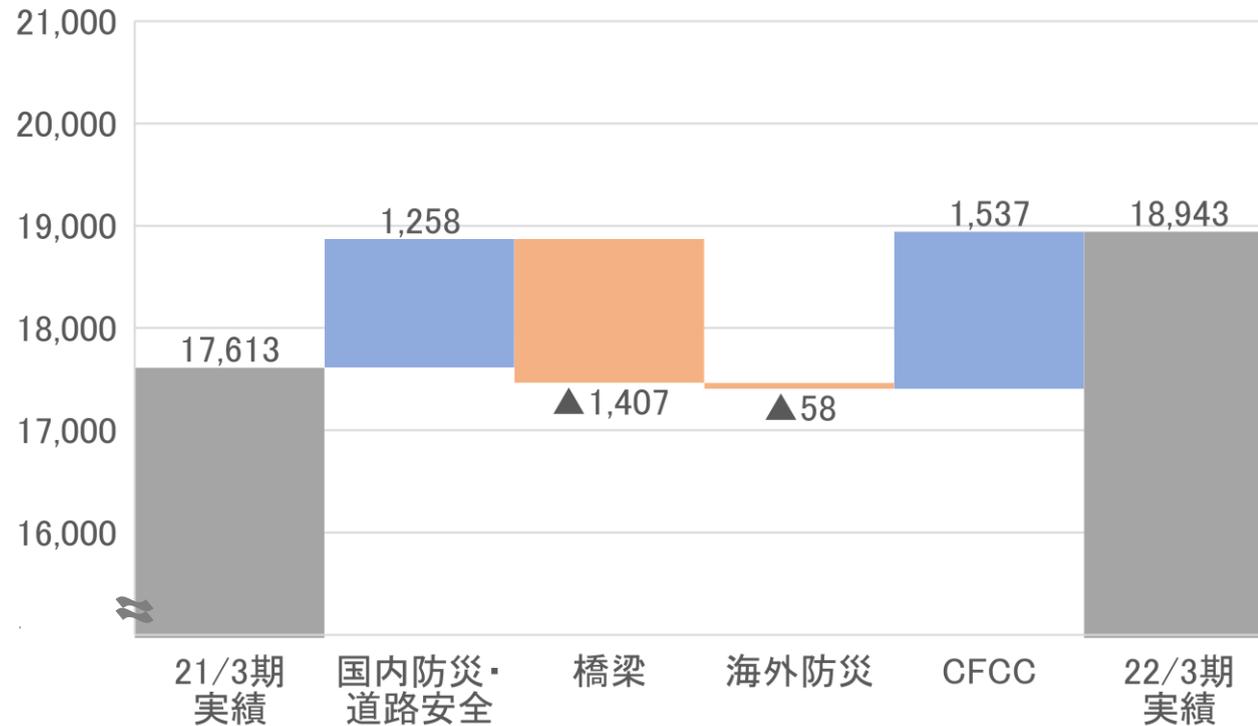


2-4. 開発製品関連事業概況(売上高)

実績

- 橋梁大型案件の終了に伴う反動があるも、国内では防災・道路安全製品が好調。
- 海外では、CFCCの米国大型案件の売上が寄与し増収。

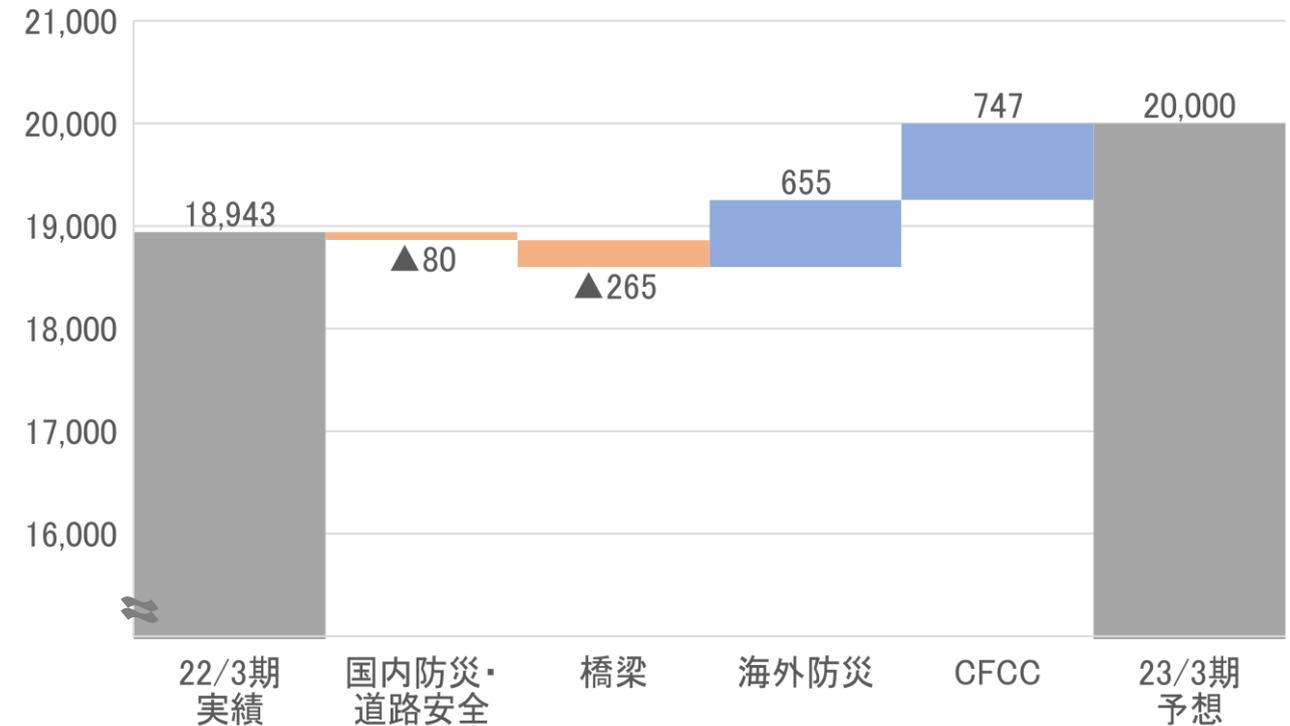
(単位:百万円)



予想

- CFCCは、米国大型案件の通期寄与、新規案件の積上げ等から増収を見込む。

(単位:百万円)

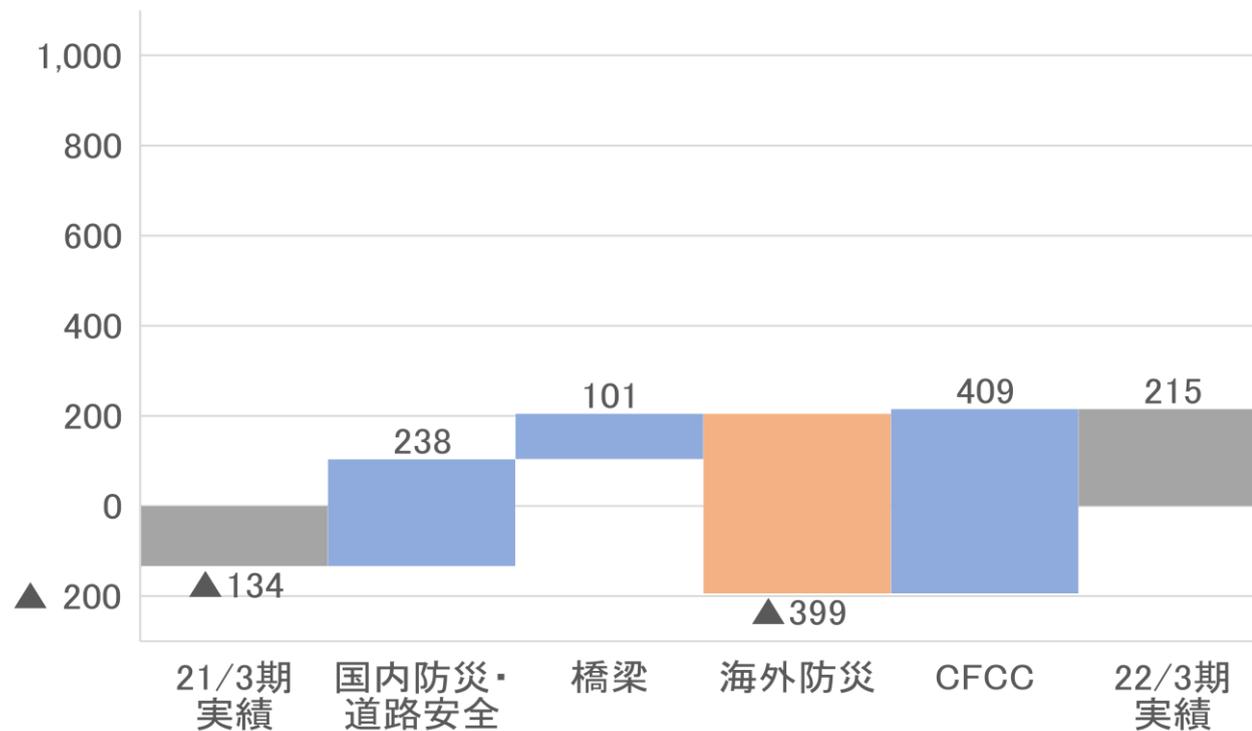


2-4. 開発製品関連事業概況(営業利益)

実績

- セグメント利益黒字化
- 要因は、国内防災・道路安全の好業績と、米国大型案件によるCFCCの売上増。

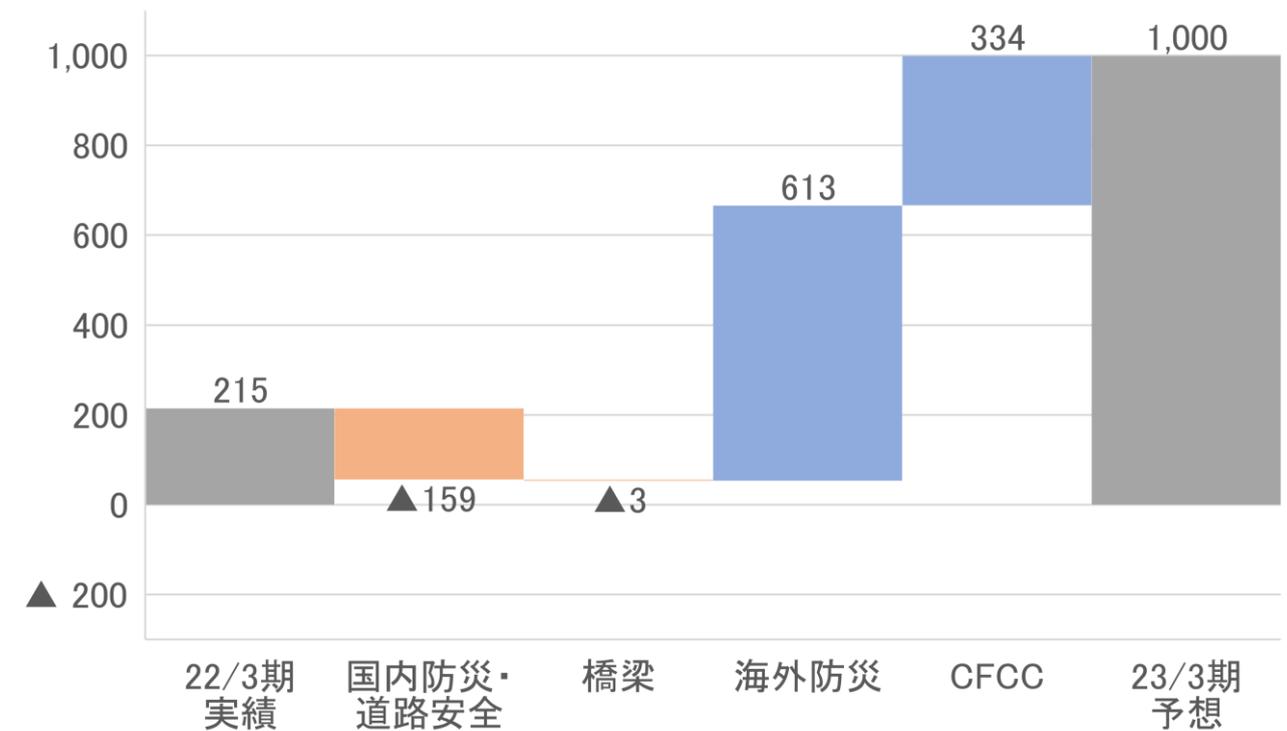
(単位:百万円)



予想

- 海外防災事業では、22年3月期から期ズレした大型案件を見込む。
- CFCC事業では、前頁の売上増に伴う高稼働を見込む。

(単位:百万円)

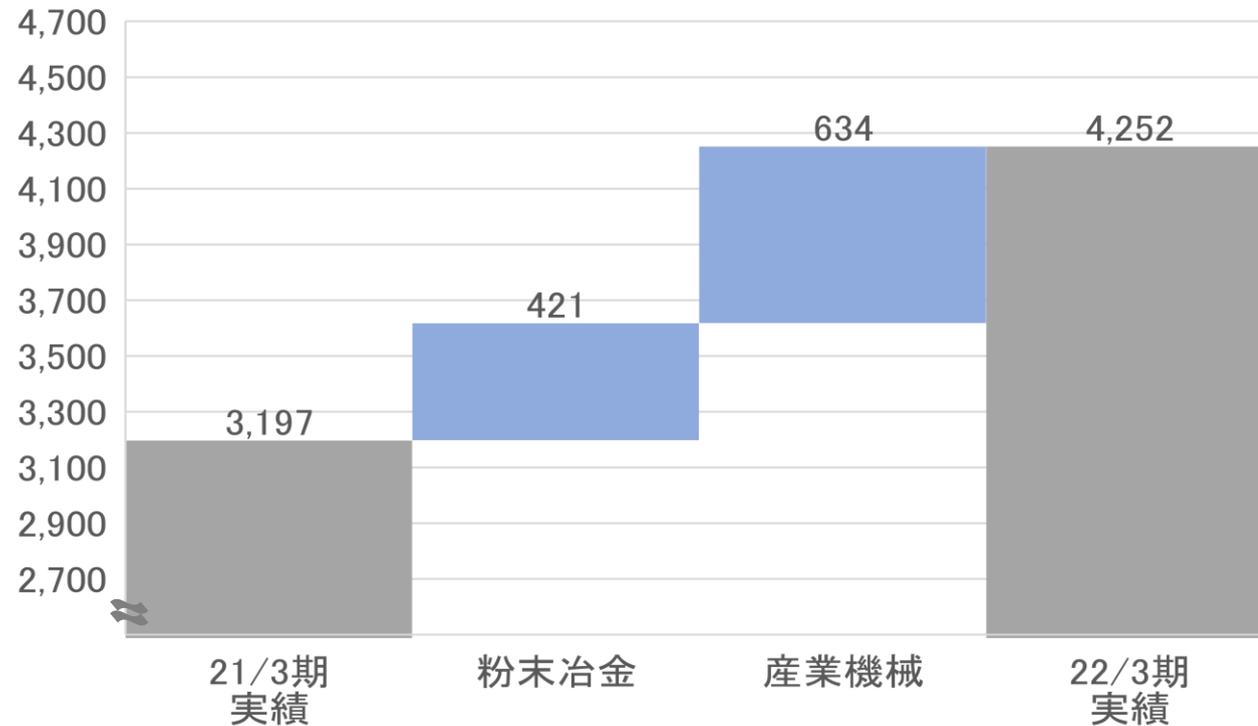


2-5. 産業機械関連事業概況(売上高)

実績

- 粉末冶金では、主要市場である自動車産業向けの回復により販売増。
- 産業機械では、省人化需要を捕捉し、大型案件を積上げ大幅増収。

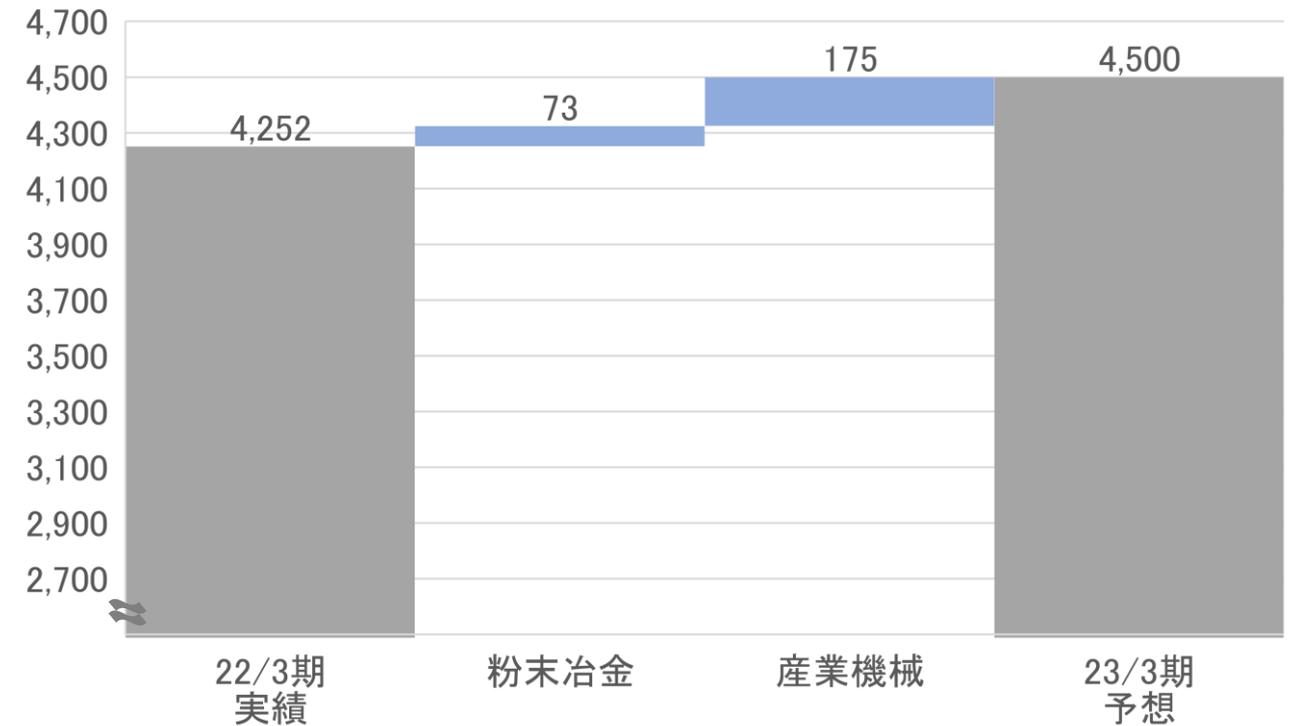
(単位:百万円)



予想

- 両事業とも、引き続き堅調に推移すると見込む。

(単位:百万円)

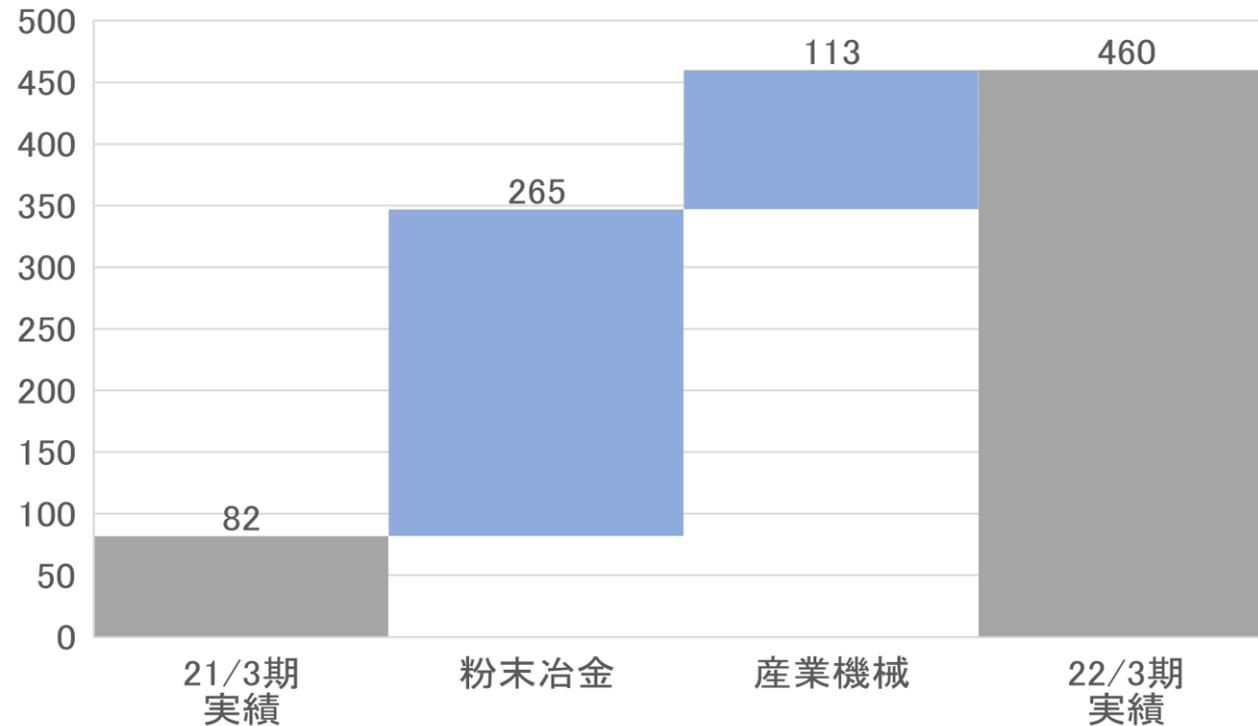


2-5. 産業機械関連事業概況(営業利益)

実績

- 両事業とも、受注増に伴う操業改善により、収益が大幅に改善。

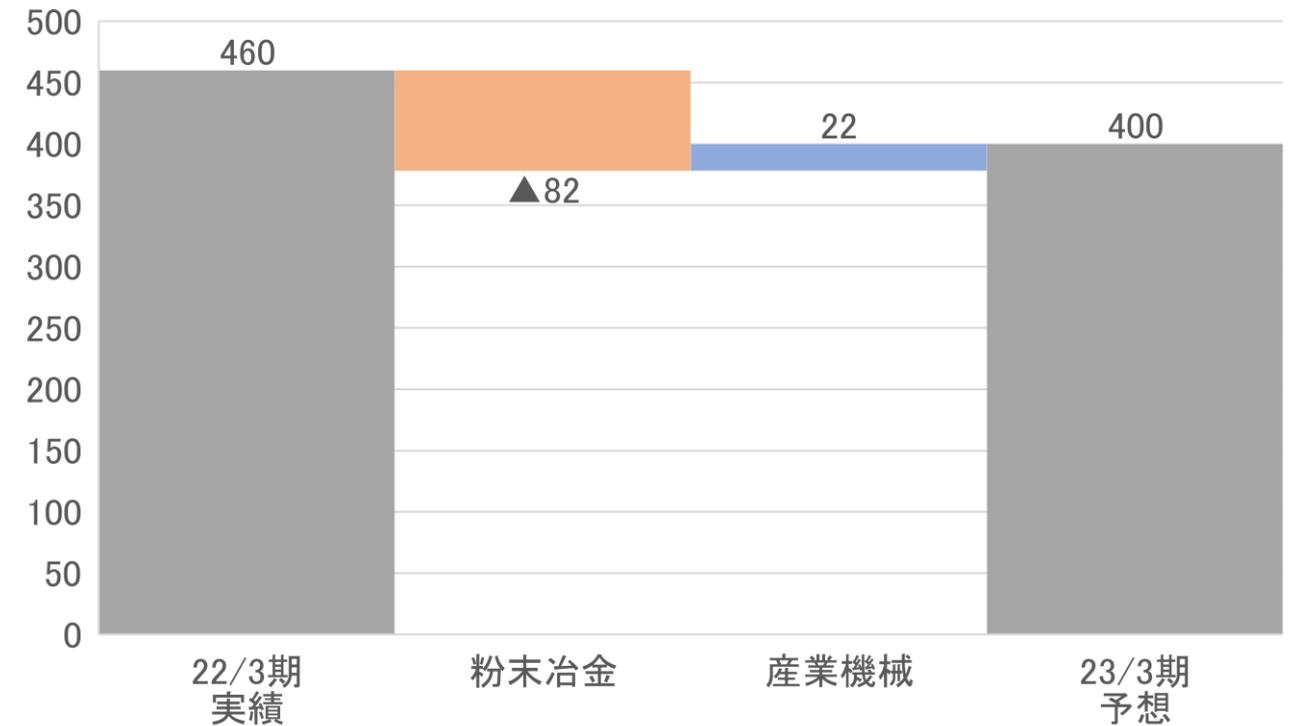
(単位:百万円)



予想

- 粉末冶金事業にて、原料粉末・電力単価上昇の影響を織込む。

(単位:百万円)

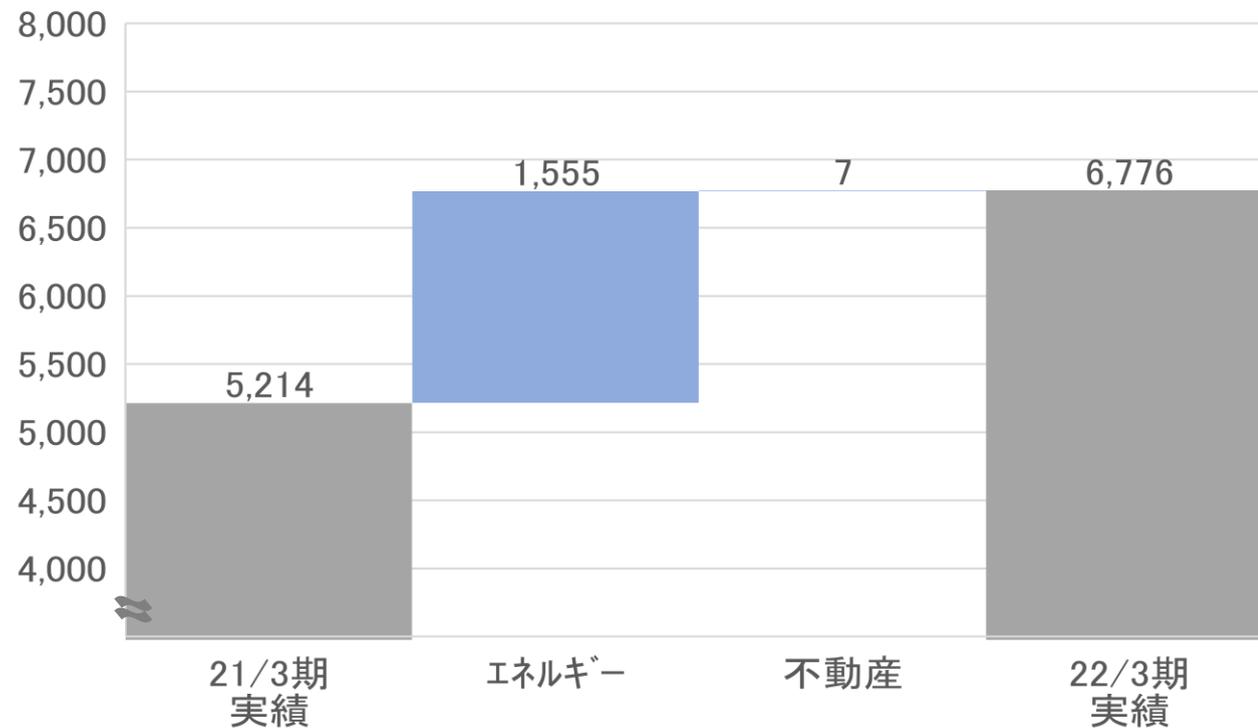


2-6. エネルギー・不動産関連事業概況(売上高)

実績

- エネルギー事業では、原油価格上昇による石油・ガスの販売単価増により大幅増収。

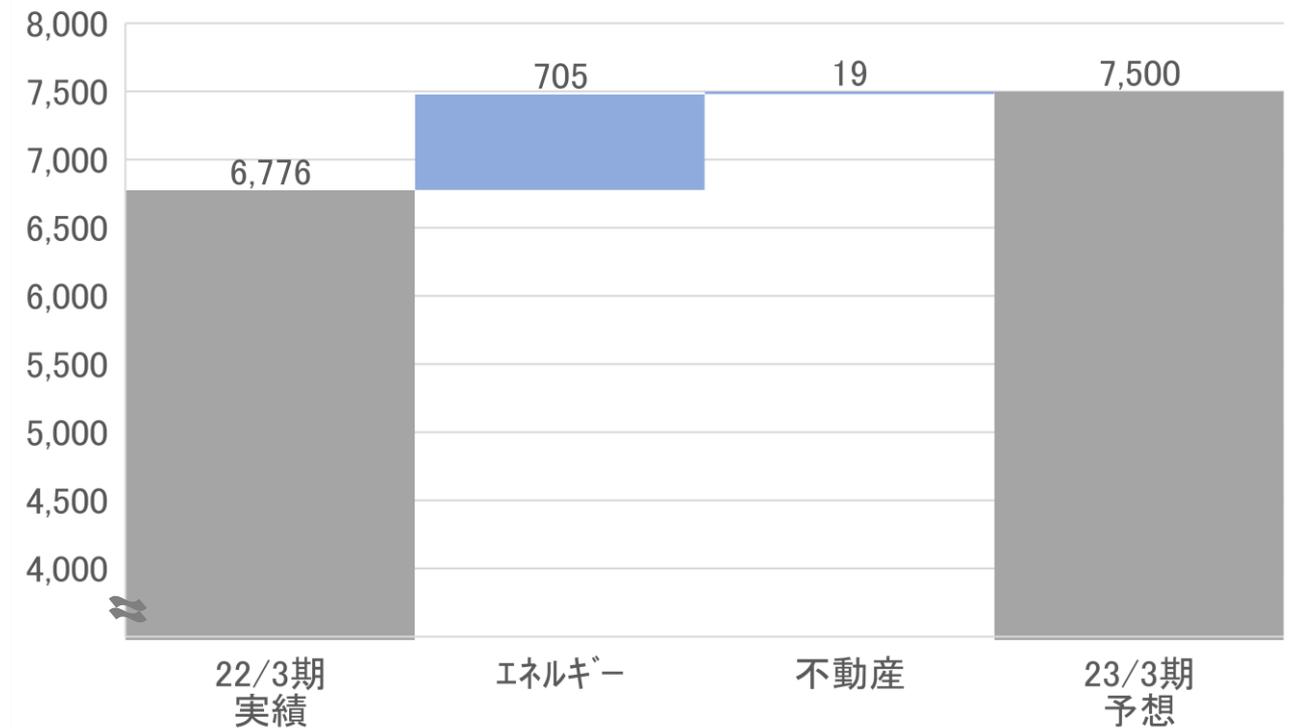
(単位:百万円)



予想

- エネルギー事業では、原油価格上昇による販売単価増を引き続き見込み増収。

(単位:百万円)

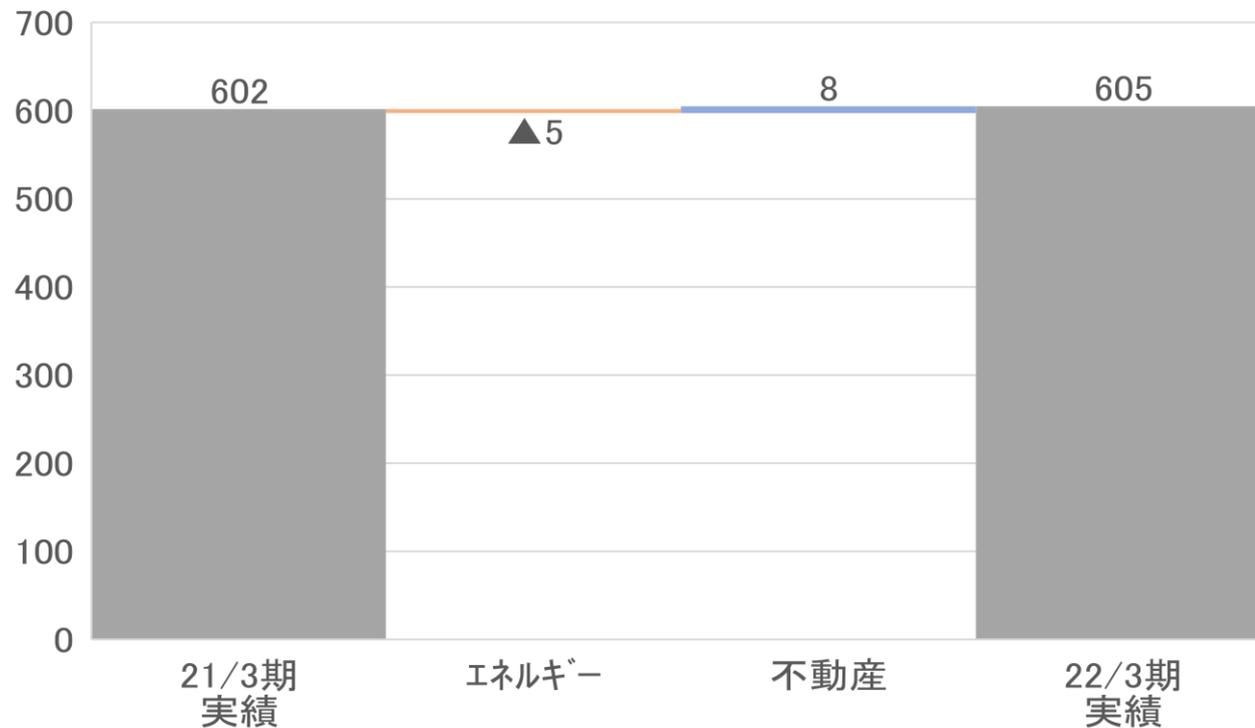


2-6. エネルギー・不動産関連事業概況(営業利益)

実績

- エネルギー事業は、販売単価増加も仕入コスト、運送コストの増加により、利益は概ね横ばいで推移。

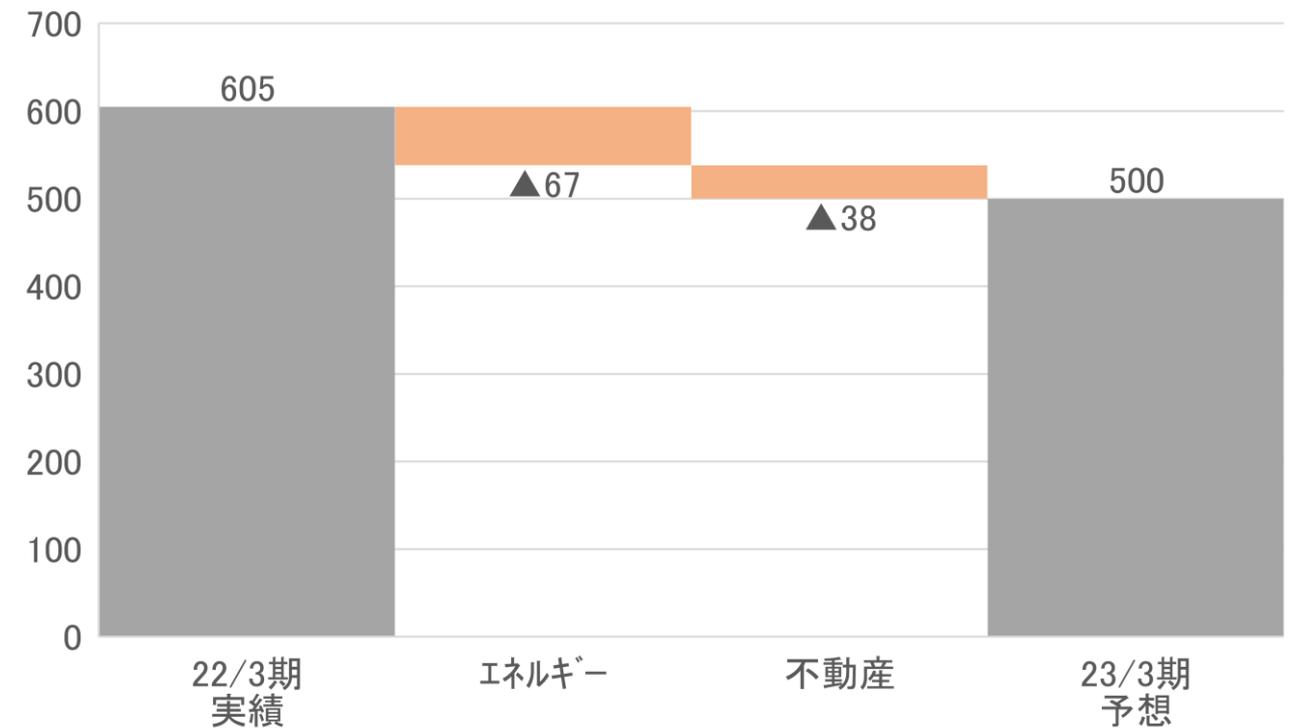
(単位:百万円)



予想

- 両事業とも、原油高に伴う運送コスト増加等の各種費用増を織込む。

(単位:百万円)

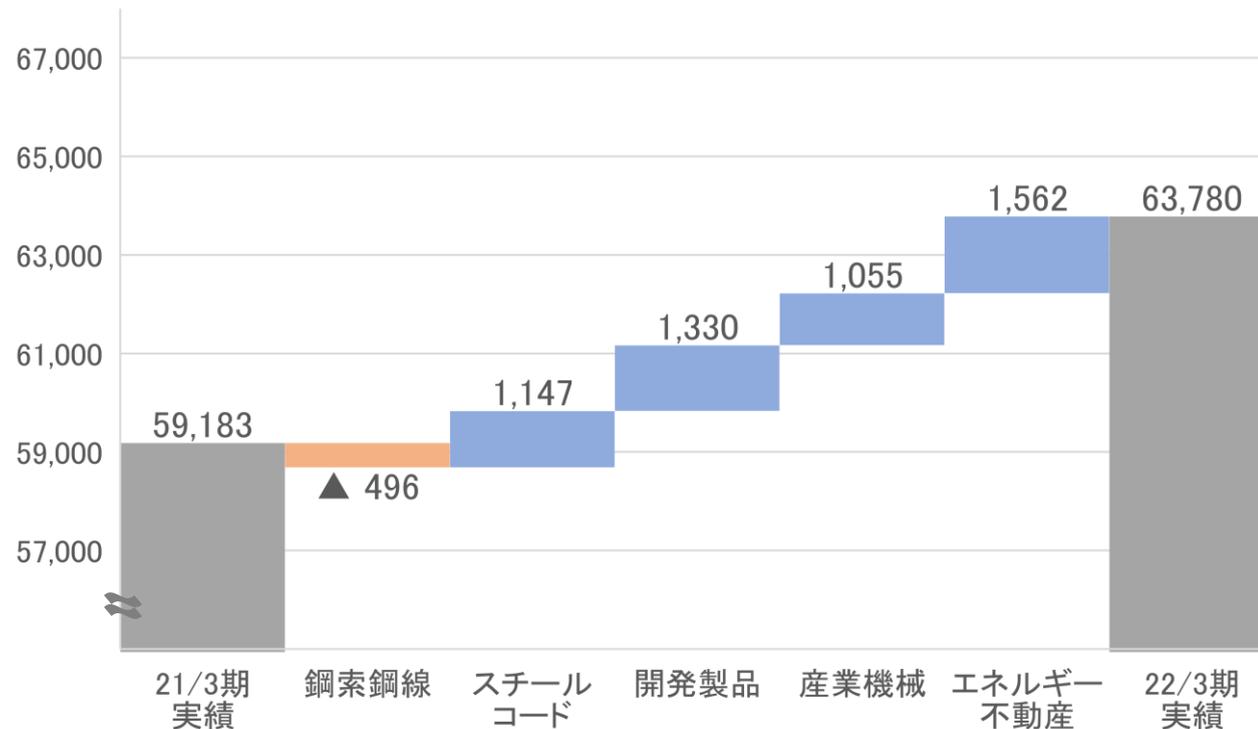


2-7. セグメント別実績と予想のまとめ(売上高)

実績

- コロナ禍からの回復を受け全事業で増収。
(※鋼索鋼線事業の減収は会計基準の変更によるもので実態は増収。)

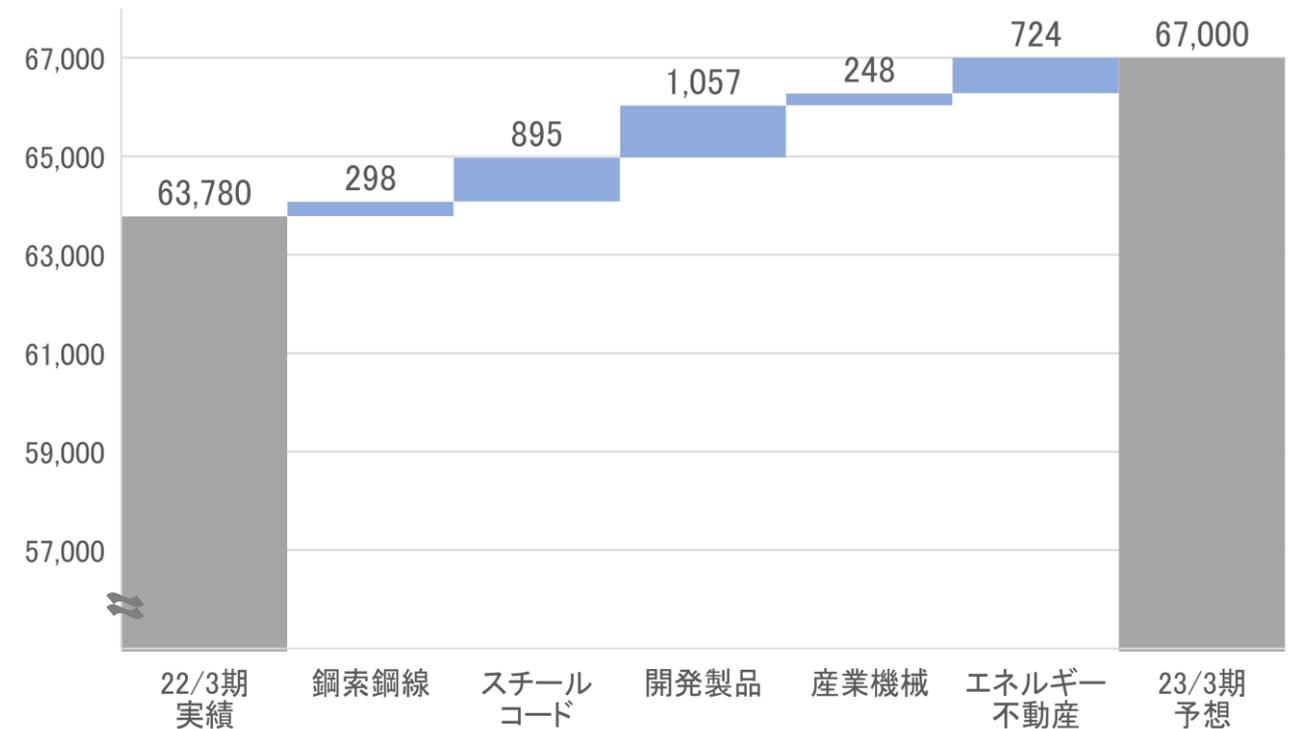
(単位:百万円)



予想

- 全事業での増収を見込む。

(単位:百万円)

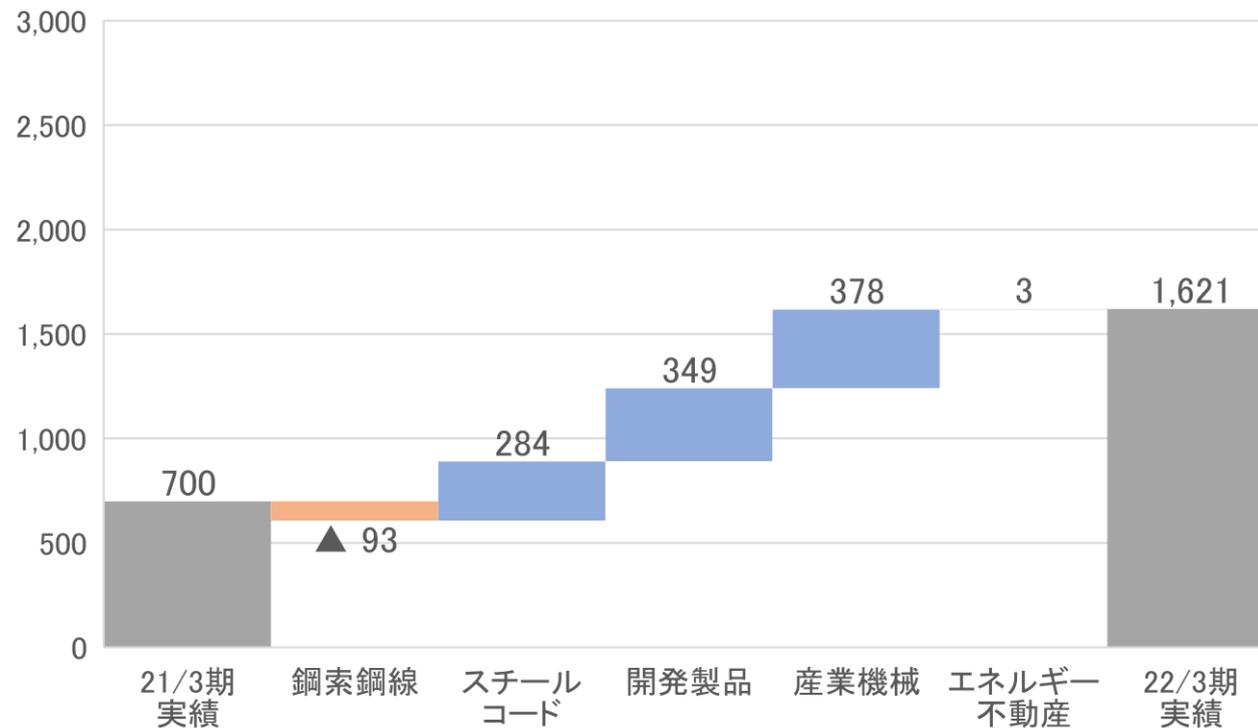


2-7. セグメント別実績と予想のまとめ(営業利益)

実績

- 諸資材価格上昇等の転嫁遅れにより、鋼索鋼線事業で減益も、その他全セグメントで増益。

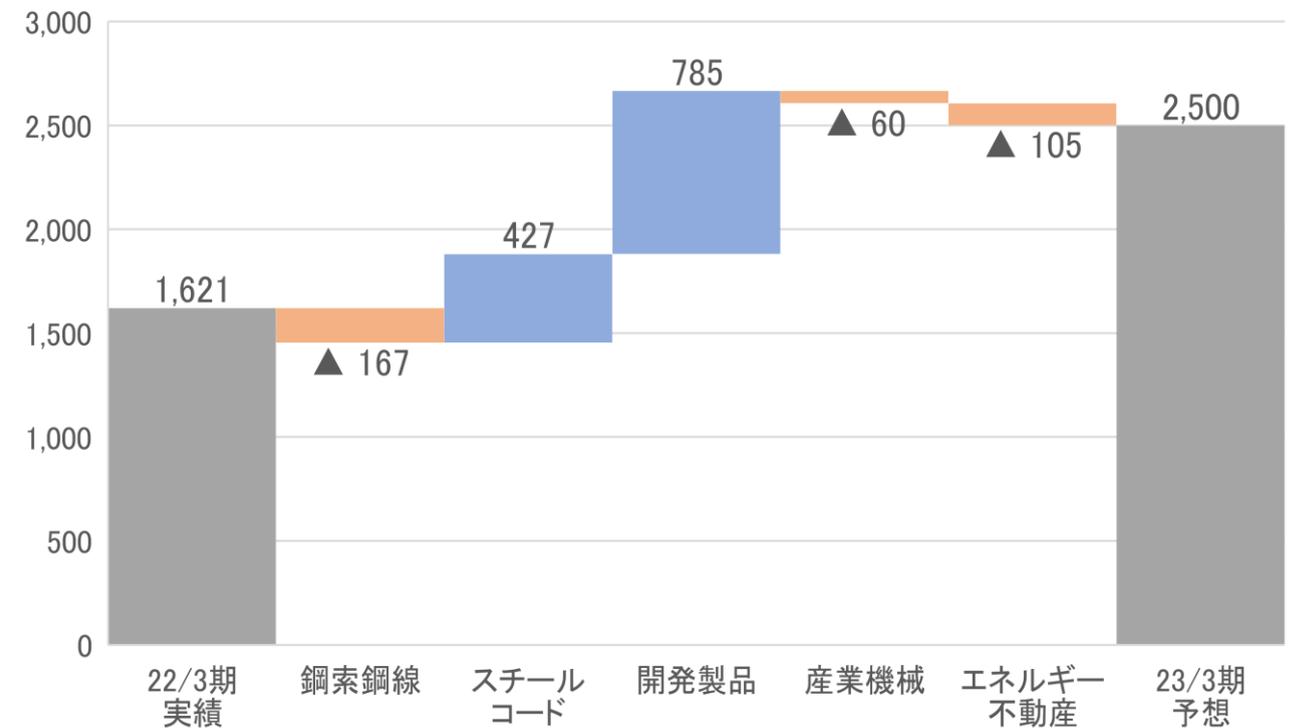
(単位:百万円)



予想

- 長年の課題であった二つのセグメント(スチールコード事業、CFCC事業)での大幅改善を見込む。

(単位:百万円)



1. 22年3月期決算・23年3月期予想概要

2. セグメント情報

3. 中期経営計画の進捗

3-1. 中期経営計画 TRX135の概要～基本コンセプト～

TRX135 = Tokyo Rope Trans(X-)formation at 135th
(創業135年目の改革)

【五つの基本方針】

1. 収益力の再構築
2. 経営資源投入の選択と集中による全事業の黒字化
3. 次期成長を見据えた基盤づくり
4. 風土改革に繋げる内部統制の再構築と積極活用
5. 財務基盤強化

3-1. 中期経営計画 TRX135の概要～中長期ビジョンとの位置づけ～

★ 経営方針・ビジョン

- 安全・安心な社会資本の整備への貢献は当社の使命であり責務である。
- 事業への取り組みを拡大することで、国際社会が求める社会・環境の持続的発展へ寄与。もって、企業価値の向上に繋げる。

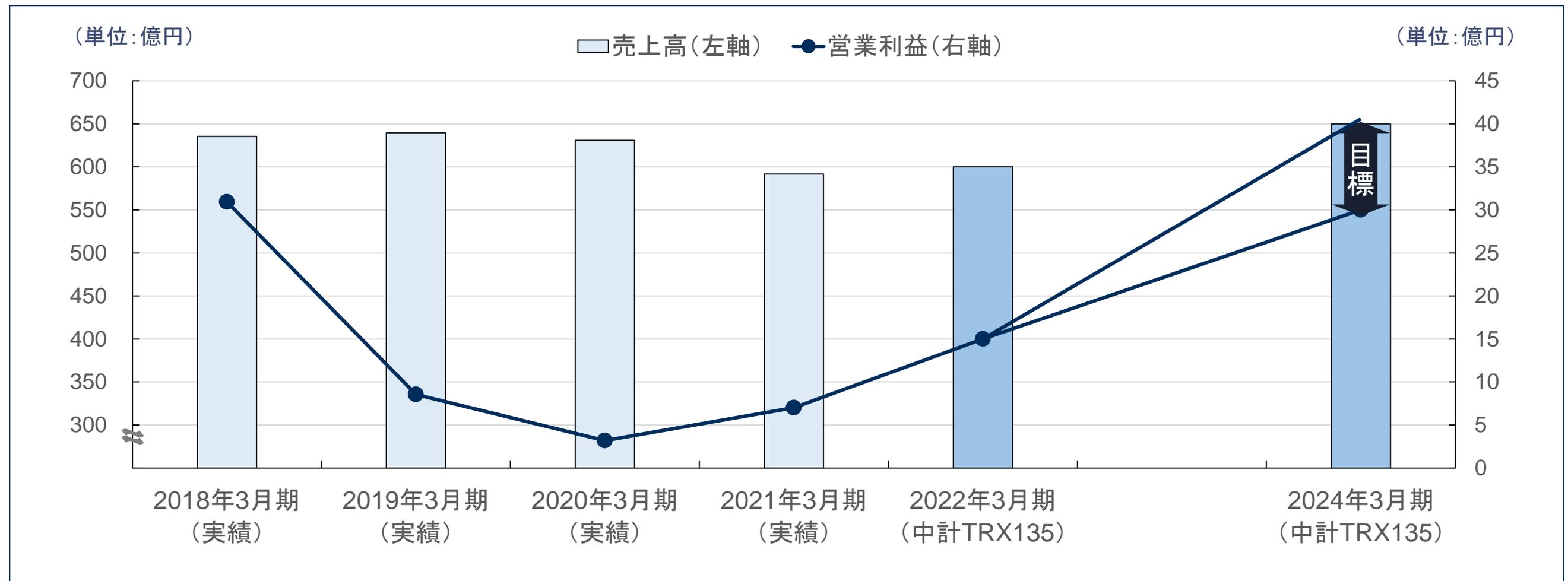
★ 新中計TRX135の位置づけ

- 近年の事業環境悪化から低迷した業績を、早期に安定的収益水準へ回復。
- 更にその先の発展的成長のための基盤固めの期間。

当社の強みであるトータル・ケーブル・テクノロジーで創造的発展へ

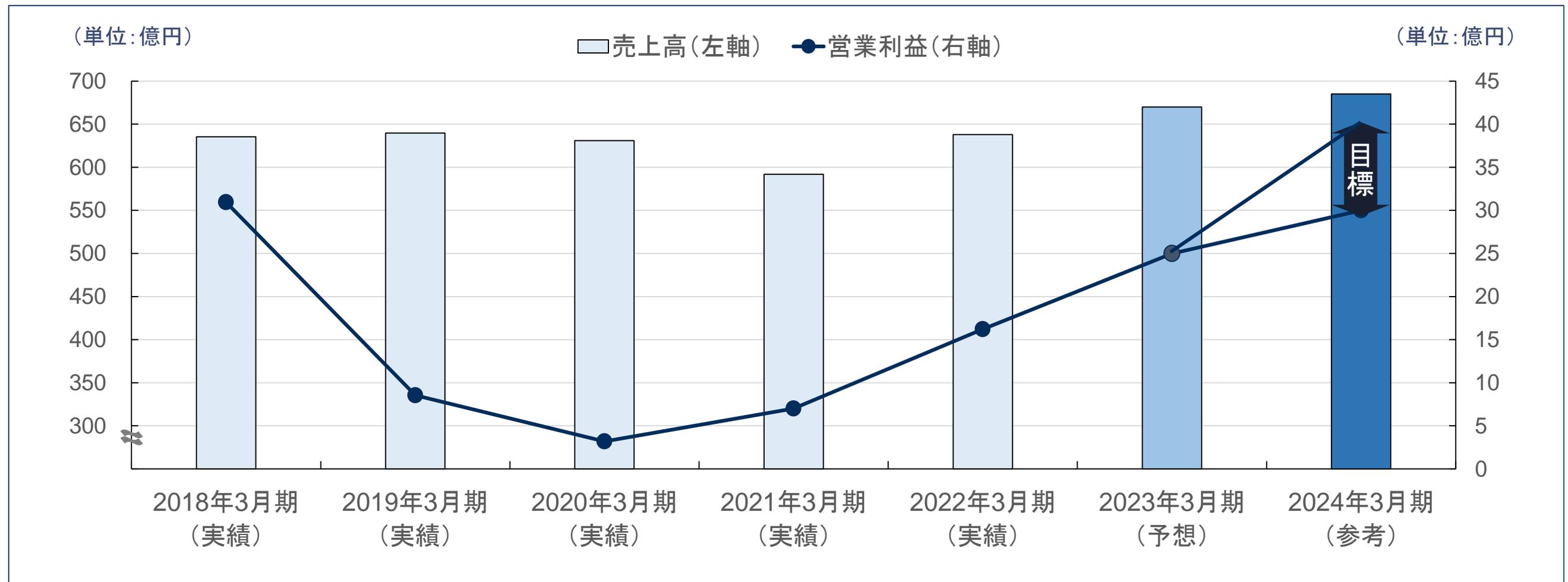
3-1. 中期経営計画 TRX135の概要～連結数値目標～

TRX135の重点課題は収益力の回復、
18年3月期を超える営業利益(30～40億円)を中計最終年度(24年3月期)に目指す。



3-2. 計画期間の連結数値目標(1/3)～今後の到達目標(参考値)～

中計TRX135の更新は行わないが、足許の急激な物価上昇・為替変動を踏まえ、最終年度の売上高の到達目標は670億円～700億円を目線とする(営業利益は同値)。



3-2. 計画期間の連結数値目標(2/3)～今後の到達目標(参考値)～

	22年3月期 実績	23年/3月期 当期予想	24年3月期	
			中計TRX135	(参考)到達目標
売上高	637億円	670億円	650億円	670～700億円
営業利益	16億円	25億円	30～40億円	30～40億円
EBITDA	30億円	49億円	53～63億円	53～63億円
ROE	5.4%	7.0%	8.0%以上	8.0%以上
D/Eレシオ	0.98	0.94	1.0未満	1.0未満
EPS	81.0円/株	117.9円/株	130円/株以上	130円/株以上
総還元性向	24.7%	25.4%	30%以上	30%以上

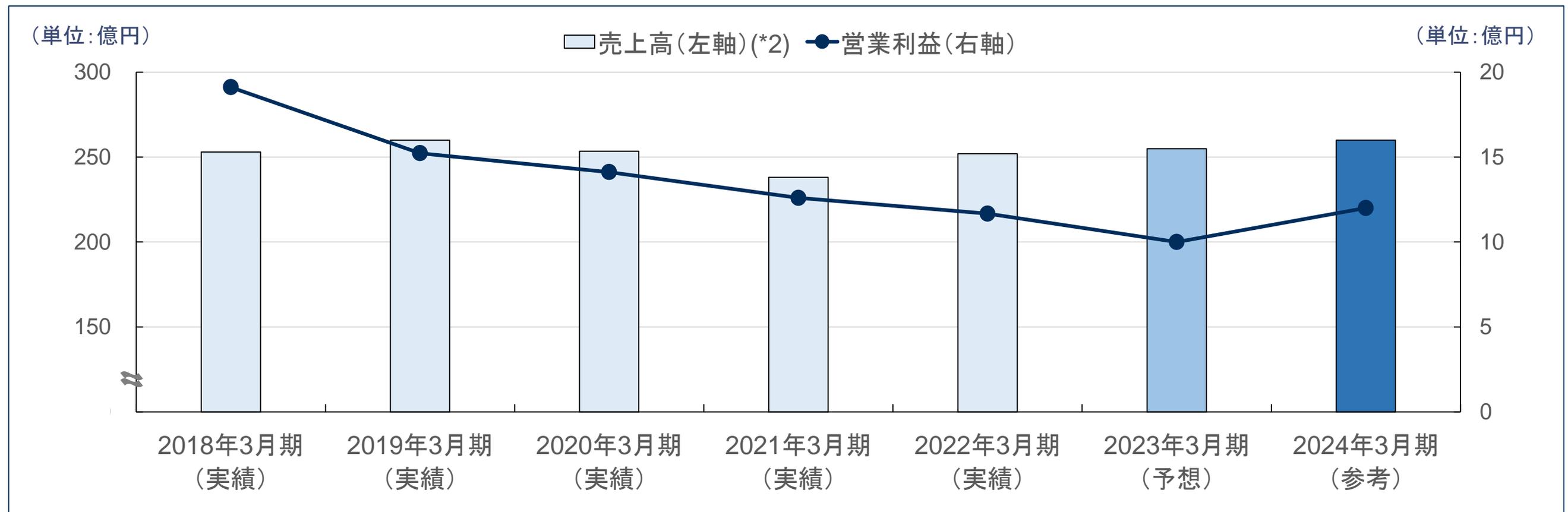
3-2. 計画期間の連結数値目標(3/3)～今後の到達目標(参考値)～

	22年3月期 実績	23年3月期 当期予想	24年3月期	
			中計TRX135	(参考)到達目標
売上高	637億円	670億円	650億円	685億円
鋼索鋼線関連事業	252億円	255億円	240億円	260億円
スチールコード関連事業	86億円	95億円	100億円	105億円
開発製品関連事業	189億円	200億円	210億円	200億円
産業機械関連事業	42億円	45億円	40億円	45億円
エネルギー不動産関連事業	67億円	75億円	60億円	75億円
営業利益	16億円	25億円	35億円	35億円
鋼索鋼線関連事業	11億円	10億円	11億円	12億円
スチールコード関連事業	▲8億円	▲4億円	1億円	1億円
開発製品関連事業	2億円	10億円	15億円	13億円
産業機械関連事業	4億円	4億円	3億円	4億円
エネルギー不動産関連事業	6億円	5億円	5億円	5億円

3-3. 事業別進捗状況～鋼索鋼線関連事業(1/2)

✿ 中計の重点課題: 収益力・競争力の再構築

✿ 最終年度の売上・営業利益到達目標(参考値): 売上260億円・営業利益12億円^(*1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

*2) 平仄確保の観点から、実績の売上は新会計基準を適用した修正値としている

3-3. 事業別進捗状況～鋼索鋼線関連事業(2/2)

✳ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
品質の向上と適正価格への是正	<ul style="list-style-type: none"> 一度の値上幅としては過去にない水準の値上げを実施した。今期も価格転嫁を行い適正スプレッドを維持する。
ターゲットを絞った海外市場へのワイヤロープ拡販	<ul style="list-style-type: none"> 索道(ロープウェイ)市場においては、新開発の樹脂心ロープが海外市場での拡販進む。
洋上風力発電市場への積極的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 繊維を用いた係留ロープの共同研究・試験評価を実施。



写真)各展示会に出展しているアミランロープ

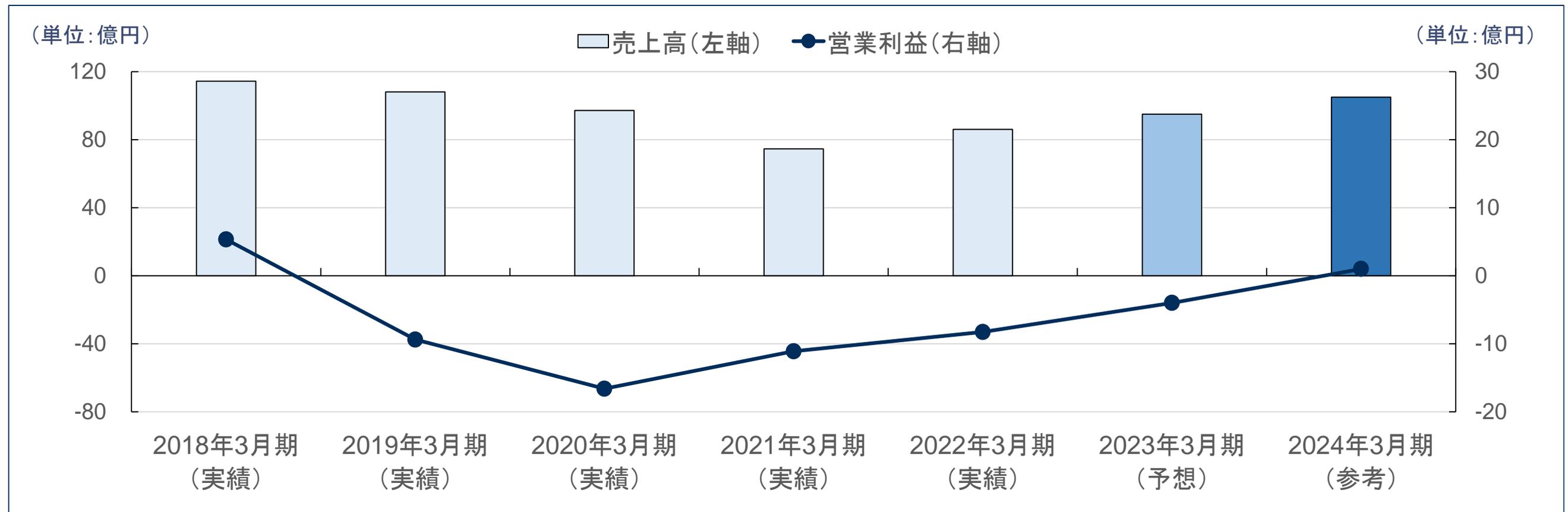


写真)海上構造物用係留ロープ

3-3. 事業別進捗状況～スチールコード関連事業(1/2)

✿ 中計の重点課題：セグメント黒字化

✿ 最終年度の売上・営業利益到達目標(参考値)：売上105億円・営業利益1億円^(*1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-3. 事業別進捗状況～スチールコード関連事業(2/2)

✳ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
原材料価格と製品価格との適正スプレッドの確保	<ul style="list-style-type: none"> • 前期に値上げを実施したが、エネルギーコスト等の上昇を受け、今期も価格転嫁を行い適正スプレッドを維持する。
新規導入設備による生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> • 当初計画より遅延したものの、新規導入設備の配備が完了し、今後は生産性改善効果の発現が見込まれる。
日本製鉄殿とのコラボレーション強化	<ul style="list-style-type: none"> • 日本製鉄殿とのコラボレーションを強化し、コスト削減施策のトライアルを実施、品質安定化に係る諸施策等も協同検討中。



写真)タイヤコード

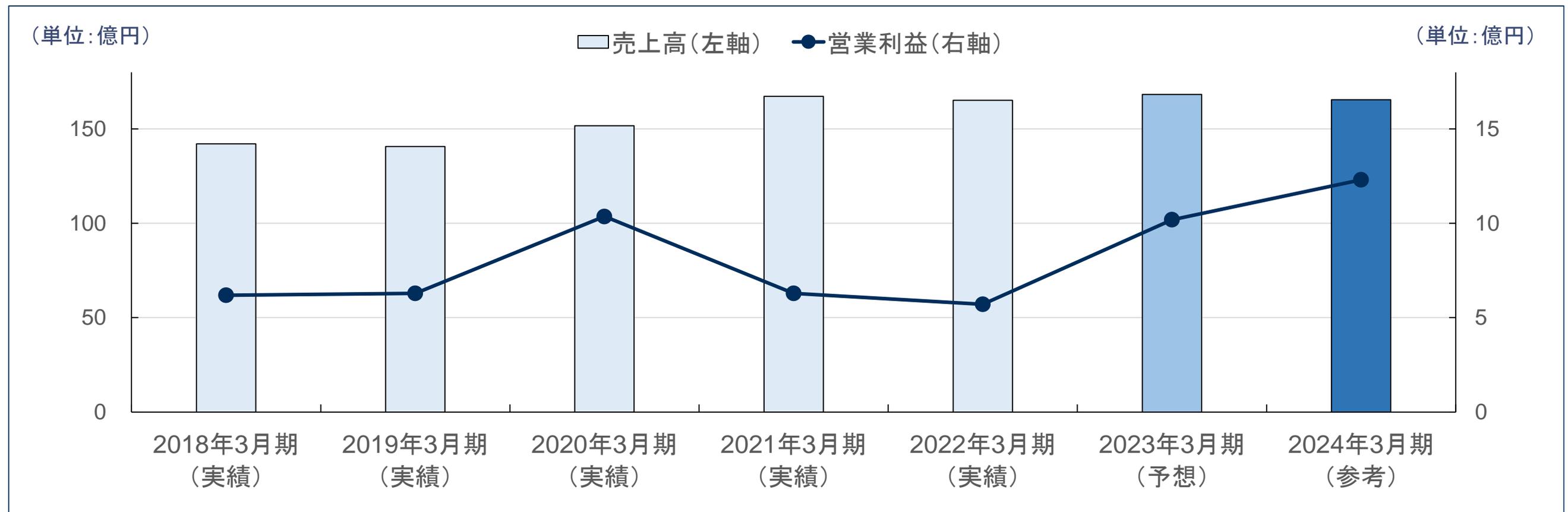


写真)東綱スチールコード北上工場

3-3. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(内エンジニアリング製品)(1/2)

✿ 中計の重点課題：差別化による競争優位性維持

✿ 最終年度の売上・営業利益到達目標(参考値)：売上165億円・営業利益12億円^(*1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-3. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(内エンジニアリング製品)(2/2)

★ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
国土強靱化政策のもと、各市場ニーズを踏まえた防災製品開発・販売	<ul style="list-style-type: none"> 土砂崩壊対策製品(アズガードフェンス)の納入実績が複数できる等、国土強靱化政策のもと堅調に推移。
全磁束法による橋梁ケーブル健全性診断及び補修・取替需要の取込み	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁ケーブルの定期点検義務化を受け、全磁束法による健全性診断業務が増加。 診断結果を受けてケーブル交換需要を取り込む。 国交省監修のリストに非破壊検査技術の一つとして掲載。



写真)アズガードフェンス

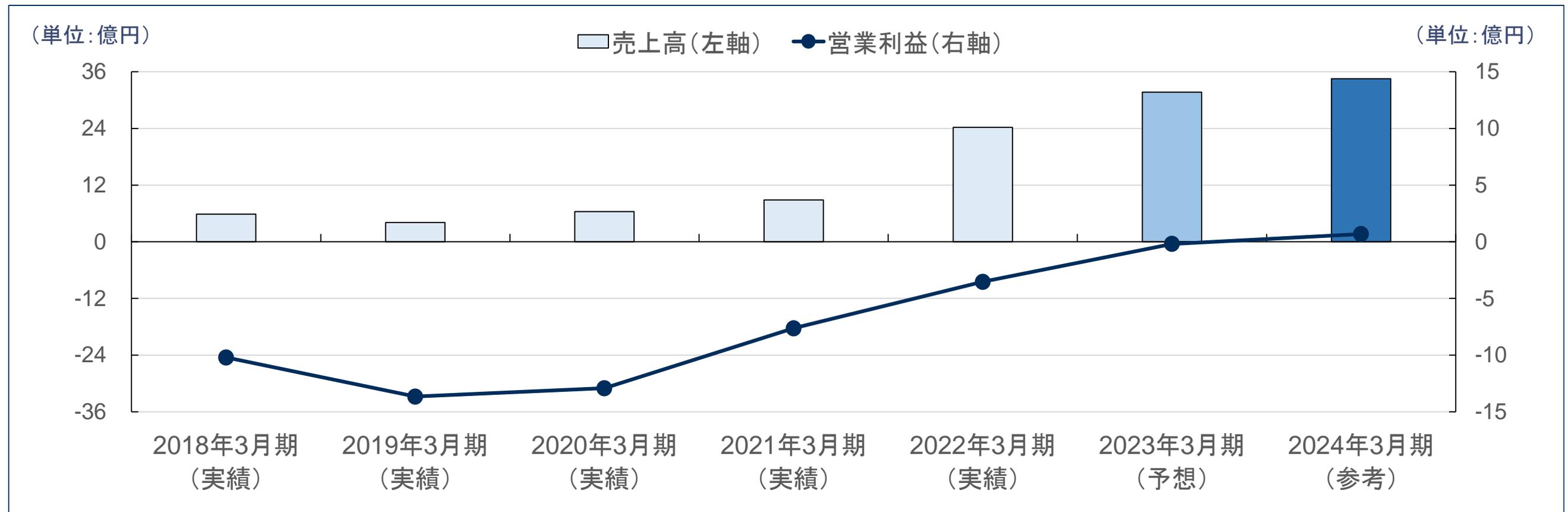


写真)全磁束法による診断風景(長大吊橋ハンガーロープ)

3-3. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(内CFCC製品)(1/3)

✿ 中計の重点課題: CFCC事業単独での黒字化

✿ 最終年度の売上・営業利益到達目標(参考値): 売上35億円・営業利益1億円^(*1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-3. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(内CFCC製品)(2/3)

★ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
土木建築製品における受注済北米案件の確実な完遂	<ul style="list-style-type: none"> 北米土木の大型案件は前期に引き続き堅調に進捗中。 全米での老朽化した橋梁整備気運があることから新規案件捕捉に向けた受注活動を展開。
市場の選択と集中	<ul style="list-style-type: none"> CFCC製造・販売を担う米国法人は黒字化、引き続き北米を中心に深耕を図る。 北米土木の大型案件(ハンプトンロード)の成功を梃に、ターゲット市場(当面は日本等)への経営資源の集中投入を図る(※詳細は次頁)。



写真) 米国法人外観



写真) CFCC高耐久ビーム

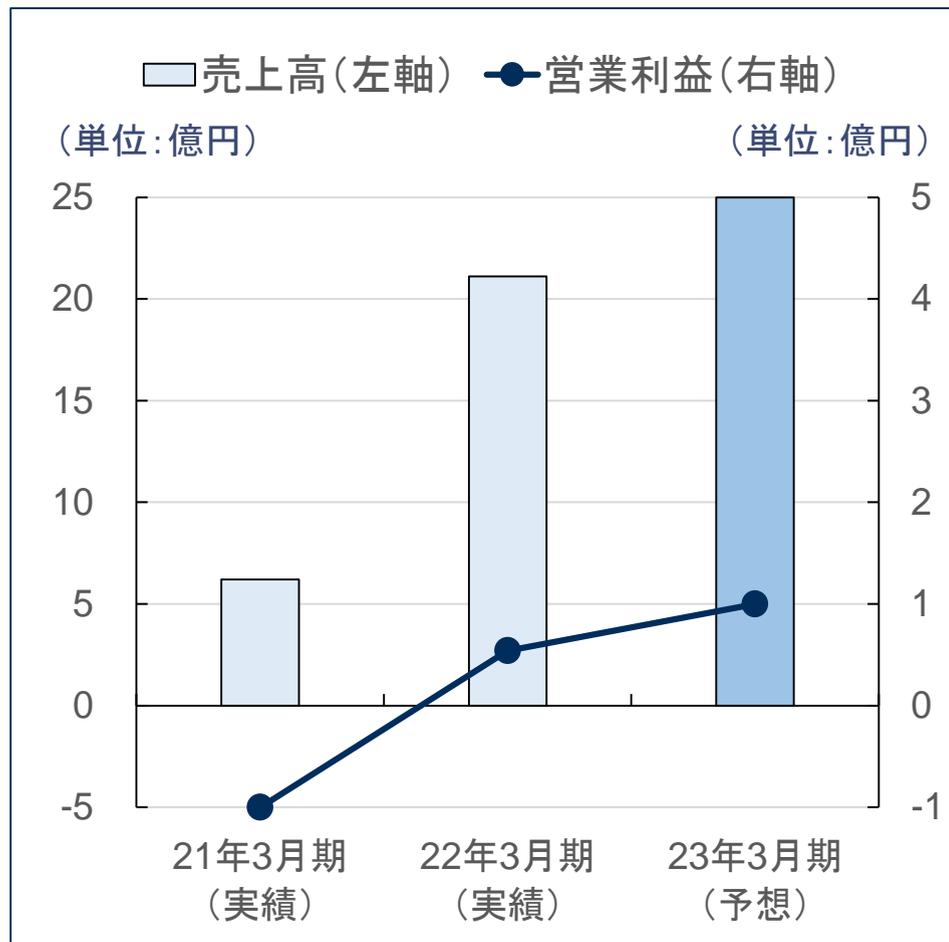


写真) CFCC製パイルの利用例

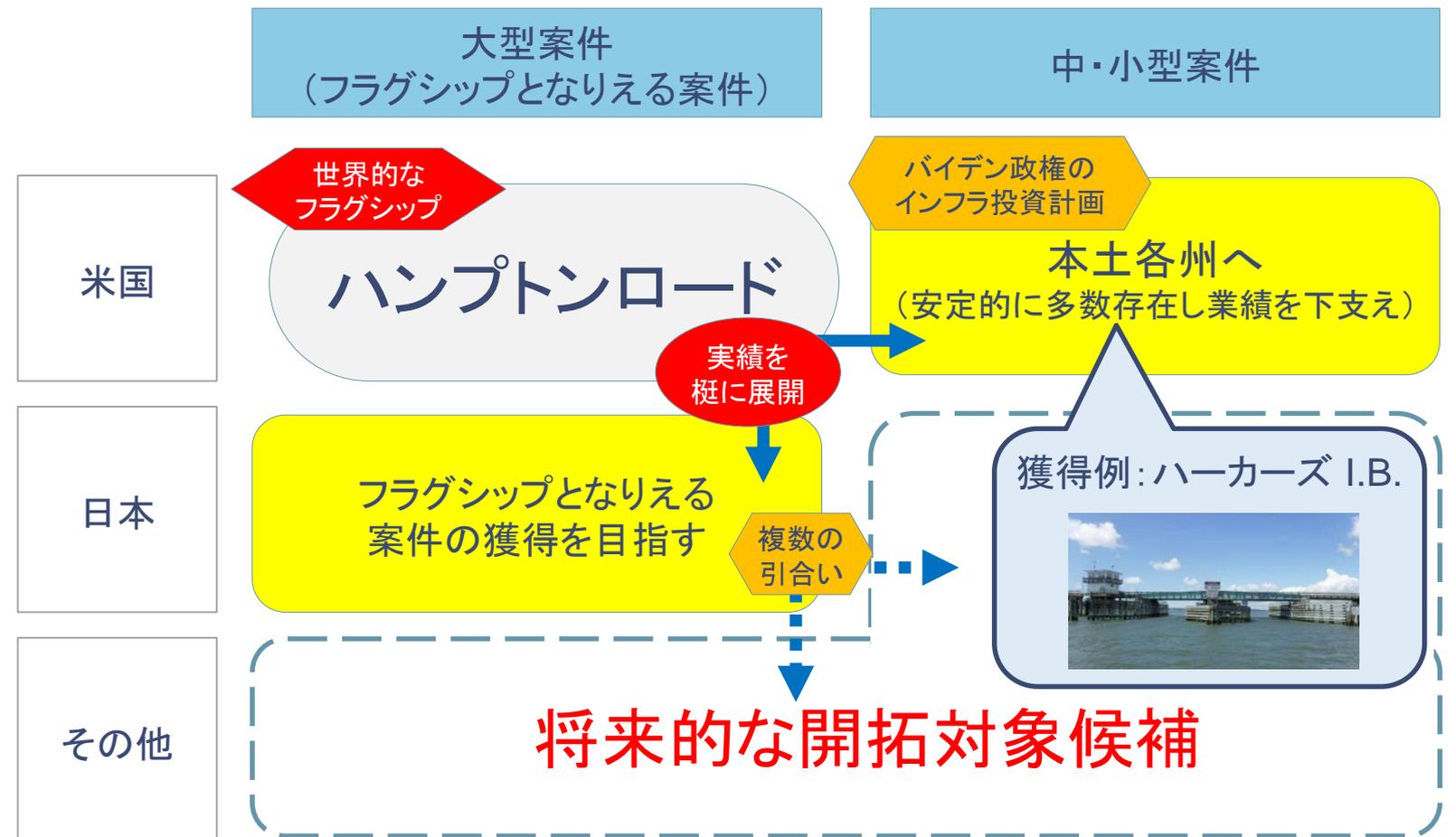
3-3. 事業別進捗状況～開発製品関連事業(内CFCC製品)(3/3)

CFCCの製造販売を担う北米子会社は、22年3月期決算(21年12月期)で黒字に転換
23年3月期(22年12月期)もフル稼働が継続し、増益予想

北米子会社の過去実績と今期予想



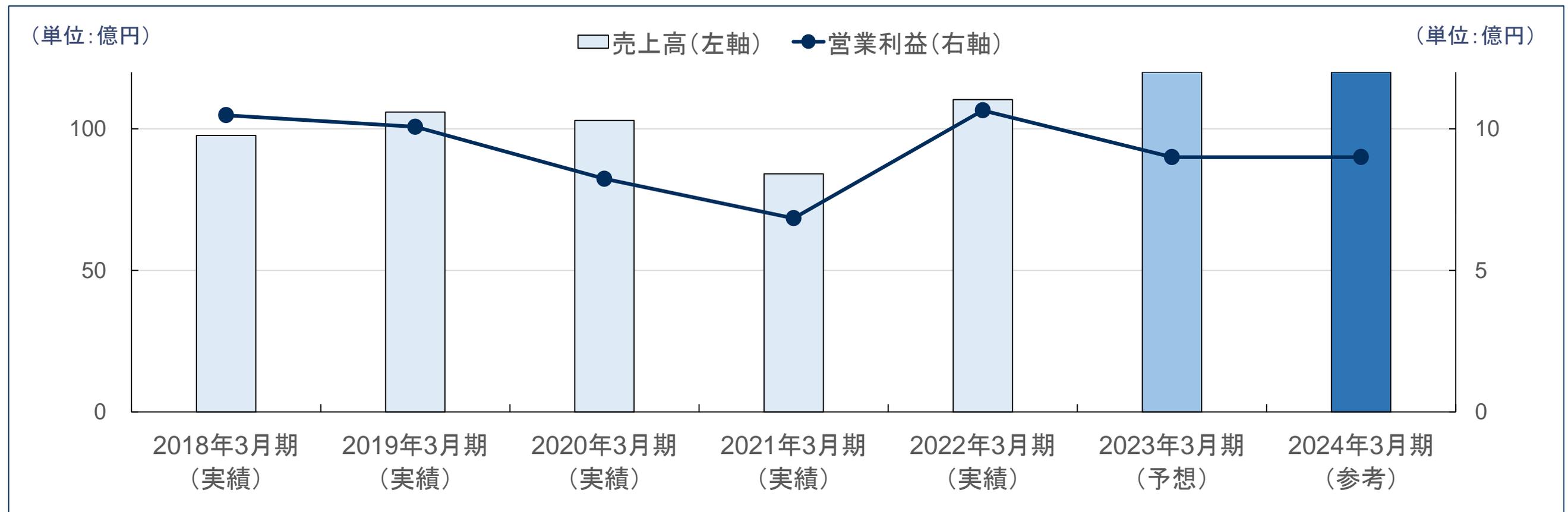
CFCCの今後の展開構想



3-3. 事業別進捗状況～産業機械関連・エネルギー不動産関連事業(1/2)

✿ 中計の重点課題：多彩な独自製品の更なる強化

✿ 最終年度の売上・営業利益到達目標(参考値)：売上120億円・営業利益9億円(*1)



*1) 連結での24年3月期の営業利益目標を35億円とした場合の数値

3-3. 事業別進捗状況～産業機械関連・エネルギー不動産関連事業(2/2)

✳ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
自社開発した高耐久超硬新素材(SCPT合金)の世界展開	<ul style="list-style-type: none"> SCPT合金(高耐久超硬新素材)の海外特許出願手続中。 東南アジアを中心としたPR展開を予定。
計量・包装分野における自動化・省人化ニーズの捕捉	<ul style="list-style-type: none"> 省人化対応設備の引き合い多く、高い操業度が引き続き継続する見込み。 メンテナンス需要の獲得も堅調に推移する予想。



写真) SCPT合金ロゴ



写真) SCPT合金製切削工具の例



写真) 包装機械の例

3-4. 全社施策の進捗状況～組織力強化のための重点戦略(1/2)

✳ 中計の重点課題：組織風土改革

✳ 基本方針：

① 内部統制の再構築と活用

- 風通しの良い組織形成に資する内部統制の再構築と活用
- 各種ルールの整備と公正な運用を通じた従業員が安心して活躍できる組織づくり

② DXによる業務改革

- DX化による従来手法からの業務改革

③ 職場環境の再整備

- 従業員のスキル向上とモチベーションアップの実現
- 多様な働き方と社員の健康に配慮した職場づくり

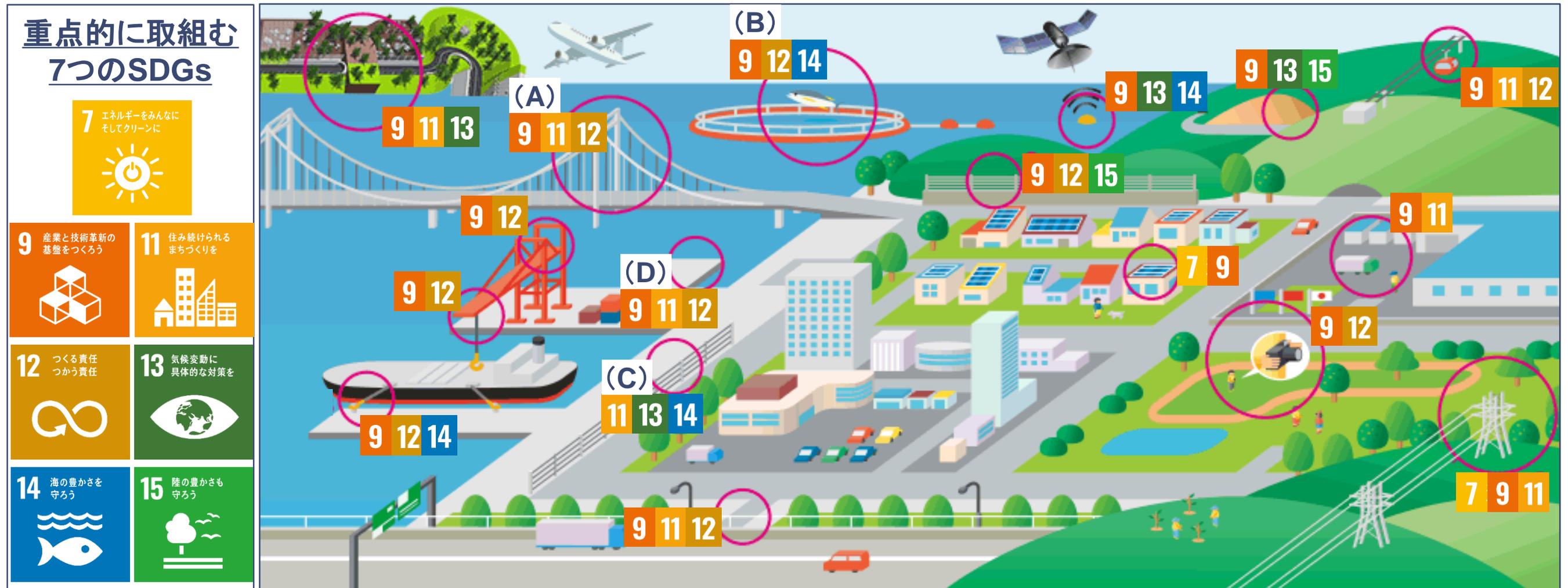
3-4. 全社施策の進捗状況～組織力強化のための重点戦略(2/2)

✳ 主要施策の主な進捗状況

施策	進捗状況
ピープルサーベイ(従業員意識調査)の定期実施と改善の促進	<ul style="list-style-type: none"> 第1回ピープルサーベイを実施し結果も全社に開示済み。 これらの課題を全社で検討し風土改革に着手。
パッケージソフトの導入を軸とした業務改革と外部知見の活用	<ul style="list-style-type: none"> パッケージソフト導入に伴う当社インフラ基盤の整備、並びに他業務システムとのデータ連携機能の開発によるデータ活用の強化を実施。
チャレンジを評価する制度の再整備	<ul style="list-style-type: none"> 表彰制度を改定して従業員のチャレンジと成長を後押し。
在宅勤務の普及と従業員の健康を踏まえたIT・オフィス環境の再整備	<ul style="list-style-type: none"> 本社事務所移転を機にサテライトオフィスやIT環境を整備してテレワークを定着化。

3-5. SDGs・ESGへの取組み～基本方針～

弊社グループは、135年の業歴で培った多様な商品・技術（トータル・ケーブル・テクノロジー）で、社会資本を支えて安全・安心を提供し、持続的な発展に貢献しています。



3-5. SDGs・ESGへの取組み～環境報告書より～(1/2)

135年の歴史で培われた多様な商品を通じて安全・安心を提供、持続的な発展に貢献

(A) 全磁束法によるケーブル診断

- 磁気を活用した全磁束診断により、鋼鉄製ケーブルやロープの腐食状況を壊すことなく診断でき、適切な寿命管理が出来ます。

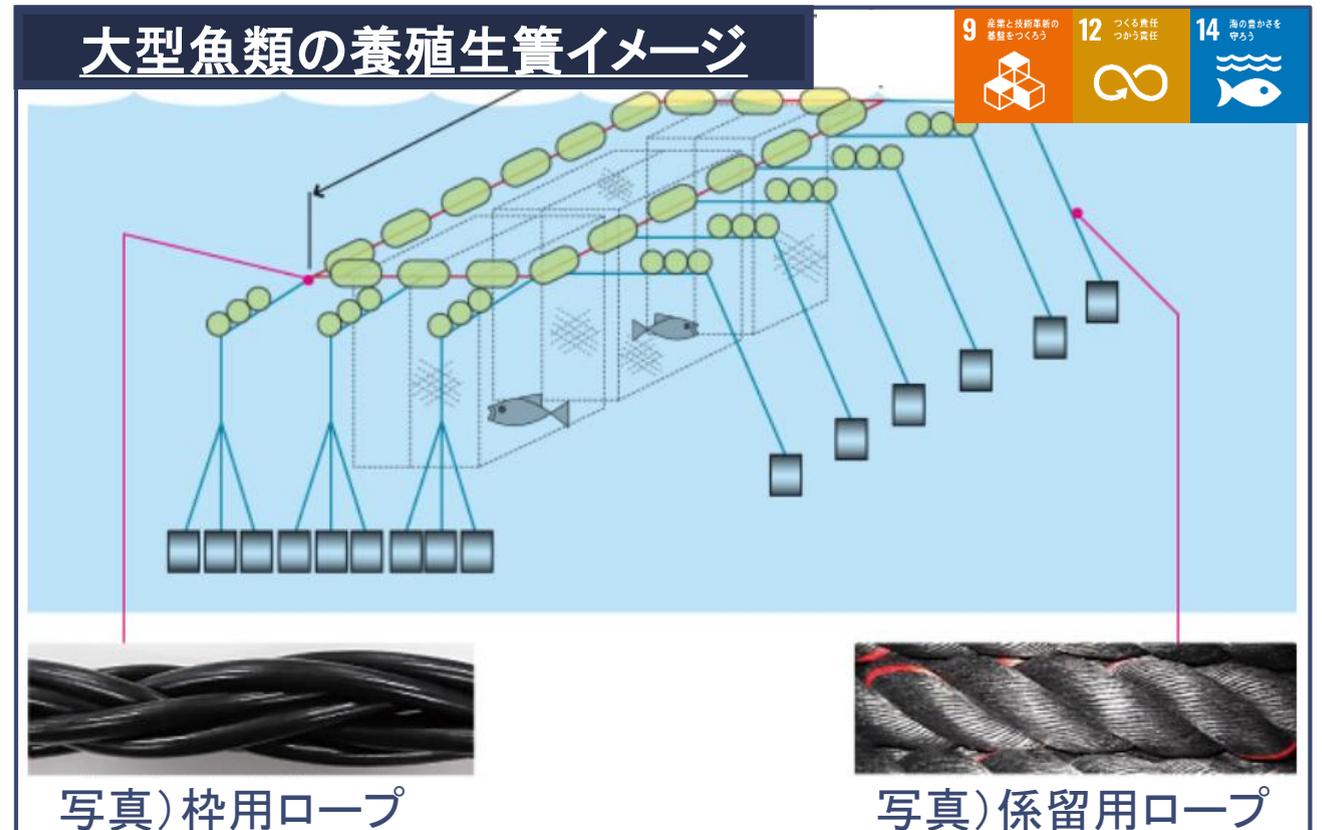
全磁束診断の実施風景



(B) 海洋牧場(マグロ)用繊維ロープ

- 育てる漁業の発展に貢献しています。

大型魚類の養殖生簀イメージ



3-5. SDGs・ESGへの取組み～環境報告書より～(2/2)

135年の歴史で培われた多様な商品を通じて安全・安心を提供、持続的な発展に貢献

(C) 津波バリアー

- 高潮等の来襲時に陸地内に船舶等が流入することを防ぐと共に、引き波による家屋、車両等の海への流出を防止します。

(D) CFCC製土木用補強材

- 従来の主流な素材に比べ、高強度、高弾性、長寿命を有しており、強靱かつ長寿命なインフラ構築に貢献しています。

津波バリアー設置イメージ



CFCCパイプ



3-6. 全社施策の進捗状況～財務・配当政策

✳️ 財務政策

- コーポレートガバナンスの観点から、政策保有株式の見直し・縮減を行う。
- 有利子負債の圧縮と財務基盤の強化を図る。

✳️ 株主還元・配当政策

- 株主還元を積極化し、総還元性向30%以上を目標とする。
- 配当の安定性を第一とし、多様な株主還元方法を検討し、財務体質の改善と株主還元の両立を目指す。

24年3月期の目標EPS
130円/株

24年3月期の総還元性向
30%以上

(ご注意)

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込み、その他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。